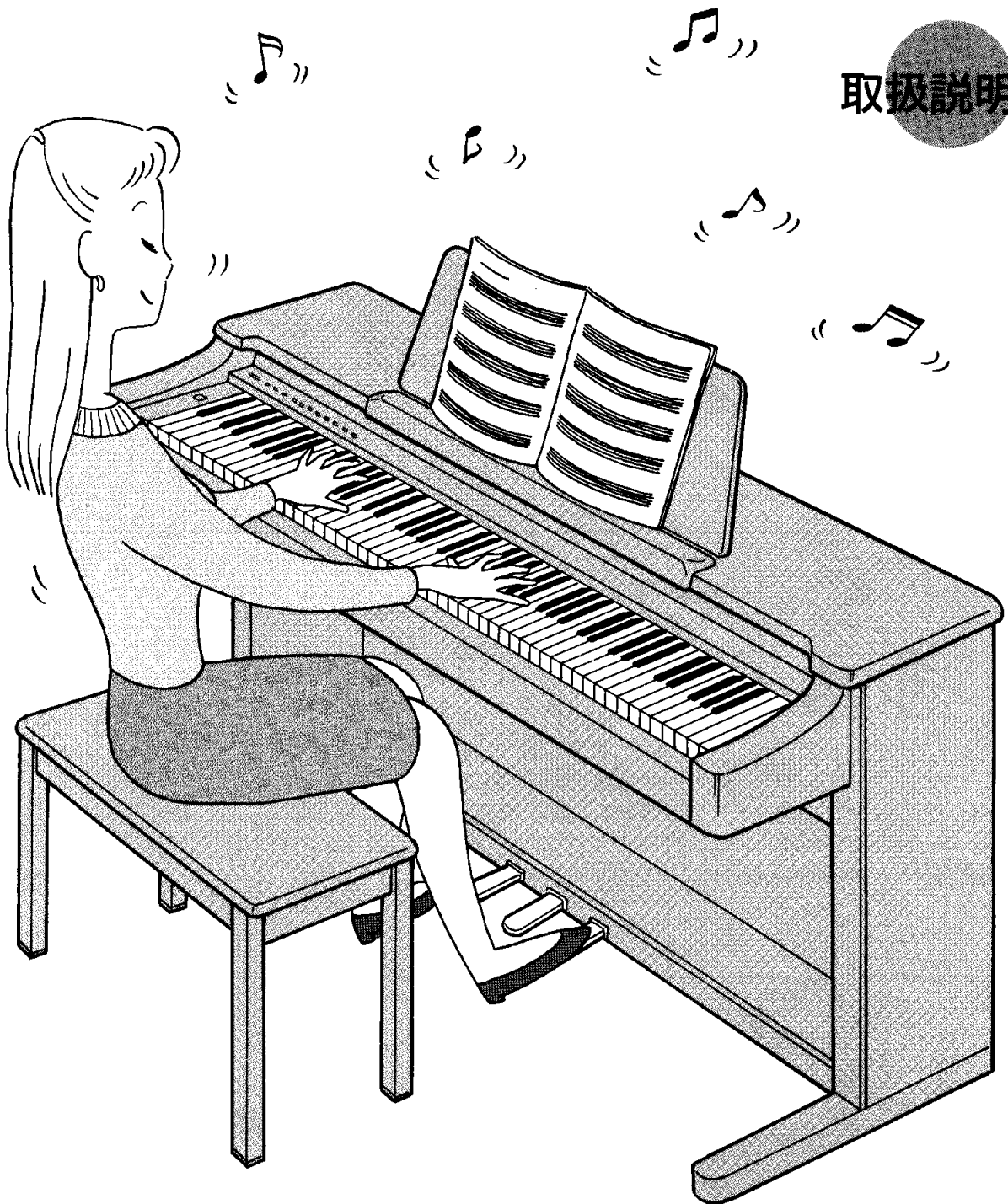


# YAMAHA

# Clavinova®

## CLP-133

取扱説明書



このたびは、ヤマハ・クラビノーバをお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

クラビノーバは、楽器づくりの経験豊かなヤマハが、伝統につちかわれた感性と先進のエレクトロニクス技術を結集して完成させた、画期的な鍵盤楽器です。

本書では、クラビノーバの魅力をいつまでもお楽しみいただけますよう、正しい取扱方法を説明しています。ぜひ、ご一読ください。

# 本書の構成

---

## はじめに

「はじめに」では、CLP-133の特長や、お使いになる上でのご注意、読みたいページの見つけ方などについて説明してあります。CLP-133を最初にお使いになる前に、必ずお読みください。

## 基本編

「基本編」では、CLP-133を演奏するにあたって、基本的に知っておきたいことを説明してあります。とりあえずCLP-133で演奏してみたいという方は、まずここだけをお読みください。

## 活用編

「活用編」では、CLP-133の発展的な機能や、他の機器との接続方法、そしてMIDI機能について説明してあります。CLP-133を使って他の楽器とアンサンブルをする方、またMIDI機能を活用する方はここをお読みください。

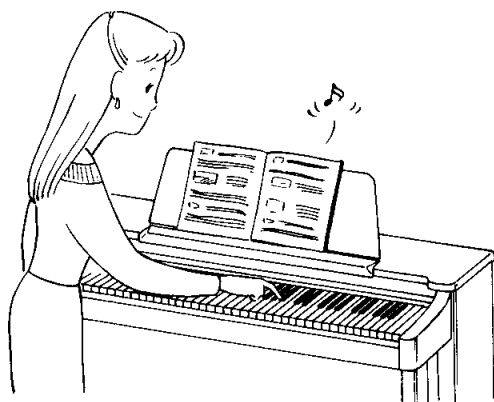
## 資料編

「資料編」では、CLP-133の組み立てかたなど、お使いになる上で役に立つ資料をまとめてあります。

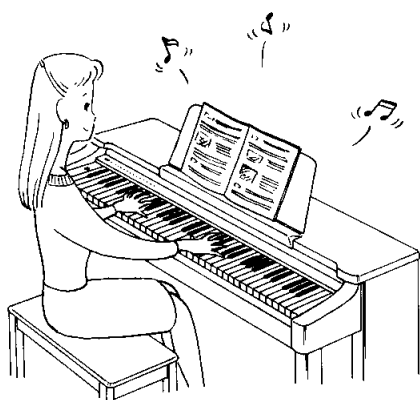
# 目次



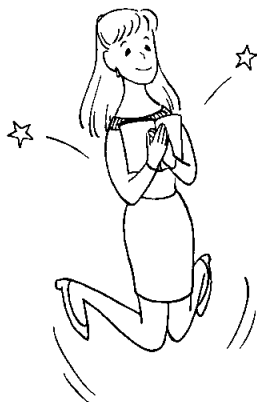
ご注意	2
特長	3
目的のページの見つけ方	3
表記上のきまり	3



各部の名称とはたらき	4
さあ！弾いてみましょう	6
デモ演奏を聴いてみましょう	10
ペダル効果	12
プリリアンス効果	14
リバーブ効果	15
デュアル機能	17



タッチセンシビリティ調節機能	20
トランスポーズ(移調)機能	21
ピッチコントロール機能	22
他の機器と接続する	24
MIDIについて	26
MIDIチャンネルの設定	28
MIDIトランスポーズの設定	29
その他のMIDI設定	30
MIDIデータフォーマット	34
MIDIインプリメンテーションチャートとは	36
MIDIインプリメンテーションチャート	37



クラビノーバの組み立てかた	38
仕様	40
オプション(別売品)のご紹介	40
サービスと保証	41

はじめに

基本編

活用編

資料編

## はじめに

## 音楽を楽しむエチケット



これは電子機器の騒音  
「音のエチケット」キャンペーンの  
シンボルマークです。

楽しい音楽も時と場所によっては、大変気になるものです。特に、夜間は小さな音でもよく通り、思わぬところに迷惑をかけてしまうことがあります。適当な音量を心がけ、音を閉めたりヘッドフォンを使うなど、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

## ご注意

## 設置場所



次のような場所でご使用になりますと、故障などの原因となりますのでご注意ください。

- ・窓際などの直射日光の当たる場所や、暖房器具のそばなど極端に暑い場所
- ・温度の特に低い場所
- ・湿気やホコリの多い場所
- ・振動の多い場所

## お取り扱い



物をぶつかけたり、上に乗るなど、乱暴に扱わないでください。傷がついたり、故障の原因となることがあります。

## 電源の処理



ご使用後は電源を切ってください。

長期間ご使用にならない場合は、電源コードをコンセントから抜いてください。

## 外装のお手入れ



お手入れは、乾いた布でカラぶきするか、汚れのひどい時は少し水で湿らせた布でふいてください。アルコールやシンナー類は、絶対に使用しないでください。また、ビニール製品を上に乗らないでください。

## 他の電気機器への影響



ラジオやテレビの近くで使用しますと、ラジオやテレビに雑音が発生したり、誤動作することがあります。十分に離してご使用ください。

## 保証書の手続き



お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きをとってください。保証書に販売店印がありませんと、保証期間中でも修理の費用をいただくこととなりますので、充分ご注意ください。

## 保管



取扱説明書をお読みになった後は、保証書と共に大切に保管してください。

## 特長

- ◆アコースティックピアノのステレオサンプリングを採用するなど、AWM音源によりリアルで高品位な表現が可能です。
- ◆32/16音同時発音により、幅広い演奏表現が可能です。
- ◆ピアノのアクション機構解析から生まれた小気味良いタッチ感覚のAE鍵盤を採用しました。
- ◆デュアル機能により、2つの音色を重ねて演奏できます。
- ◆ユニークなクラビノーバトーン音色により、新鮮な音楽表現が可能です。
- ◆ダンパーペダルを踏んだ時のアコースティックピアノの弦と響板の響きをシミュレートした共鳴効果をも再現します（ピアノ1、2のみ）。
- ◆拡張用の接続端子に加えデジタル楽器の統一規格であるMIDI端子を装備しており、演奏表現の可能性がいろいろ広がります。

## 目的のページの見つけ方


必要な情報を手早く見つける方法はいくつかあります。

- ◆巻頭の「目次」を使う。  
最も一般的な方法です。
- ◆「基本編」の中の「各部の名称とはたらき」を参考にする。  
ボタンなどの動きがわからなくなった時に、有効な方法です。  
パネルのイラストから、関連ページがすぐに探し出せます。

## 表記上のきまり

この取扱説明書では、表記に次のような記号を使います。

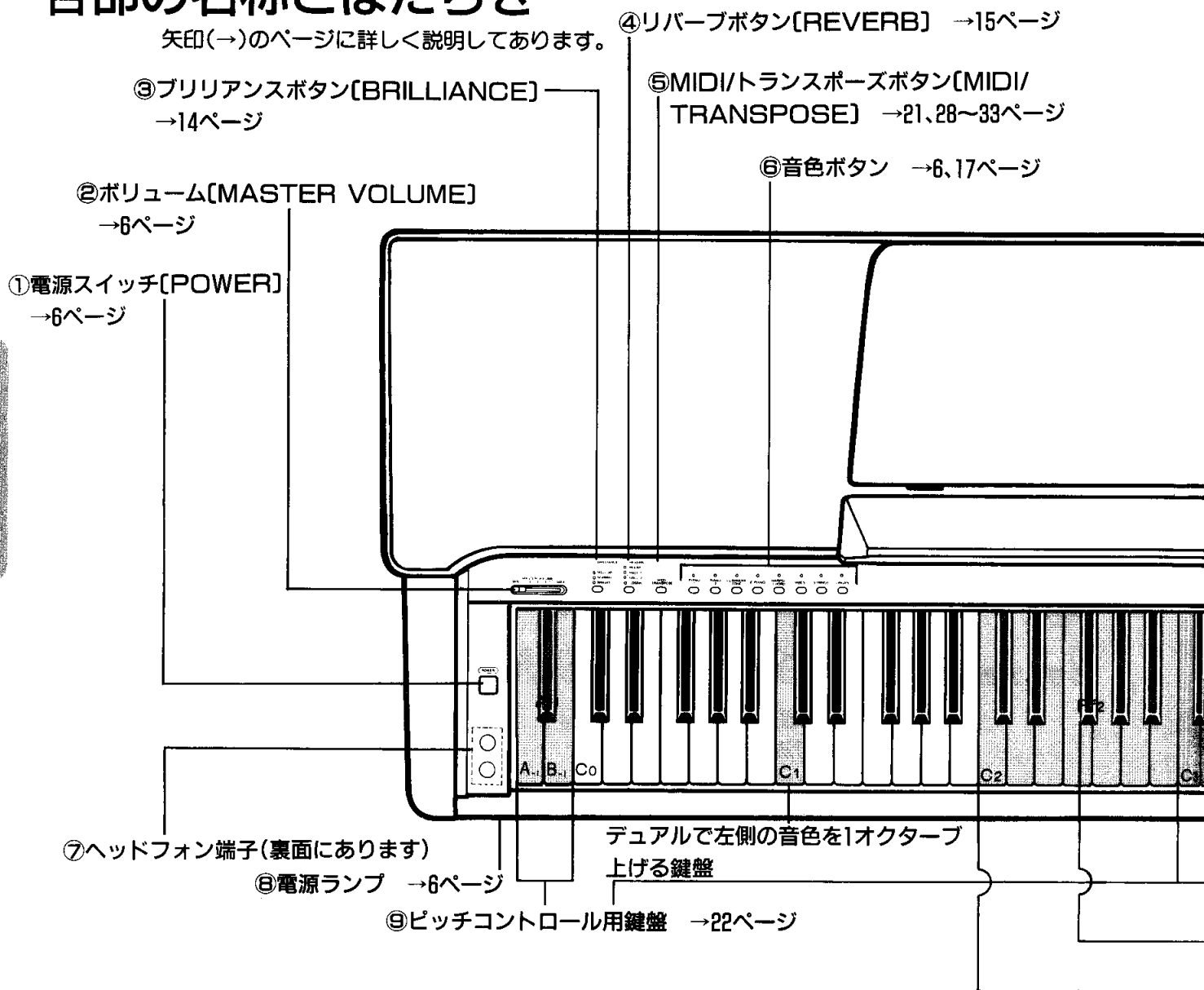
 補足                   : 補足説明です。

●  ○                   : 本書の手順の説明のイラストで、ランプの点灯、点滅、消灯は、それぞれ  
点灯 点滅 消灯           このように表します。

# 基本編

## 各部の名称とはたらき

矢印(→)のページに詳しく説明してあります。



### ①電源スイッチ[POWER] →6ページ

CLP-133の電源をオン/オフするスイッチです。このスイッチを押すと電源が入り、もう一度押すと切れます。

### ②ボリューム[MASTER VOLUME] →6ページ

音量を調節するためのレバーです。

### ③ブリリアンスボタン[BRILLIANCE] →14ページ

このボタンを押すことで、音の明るさ(音質)を3段階に切り替えることができます。

### ④リバーブボタン[REVERB] →15ページ

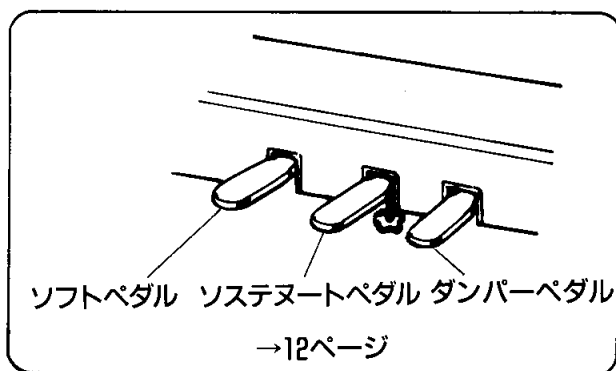
このボタンを押してランプを点灯させると、演奏音に残響が付け加わり、音の響きが豊かになります。

### ⑤MIDI/トランスポーズボタン[MIDI/TRANSPOSE] →21、28~33ページ

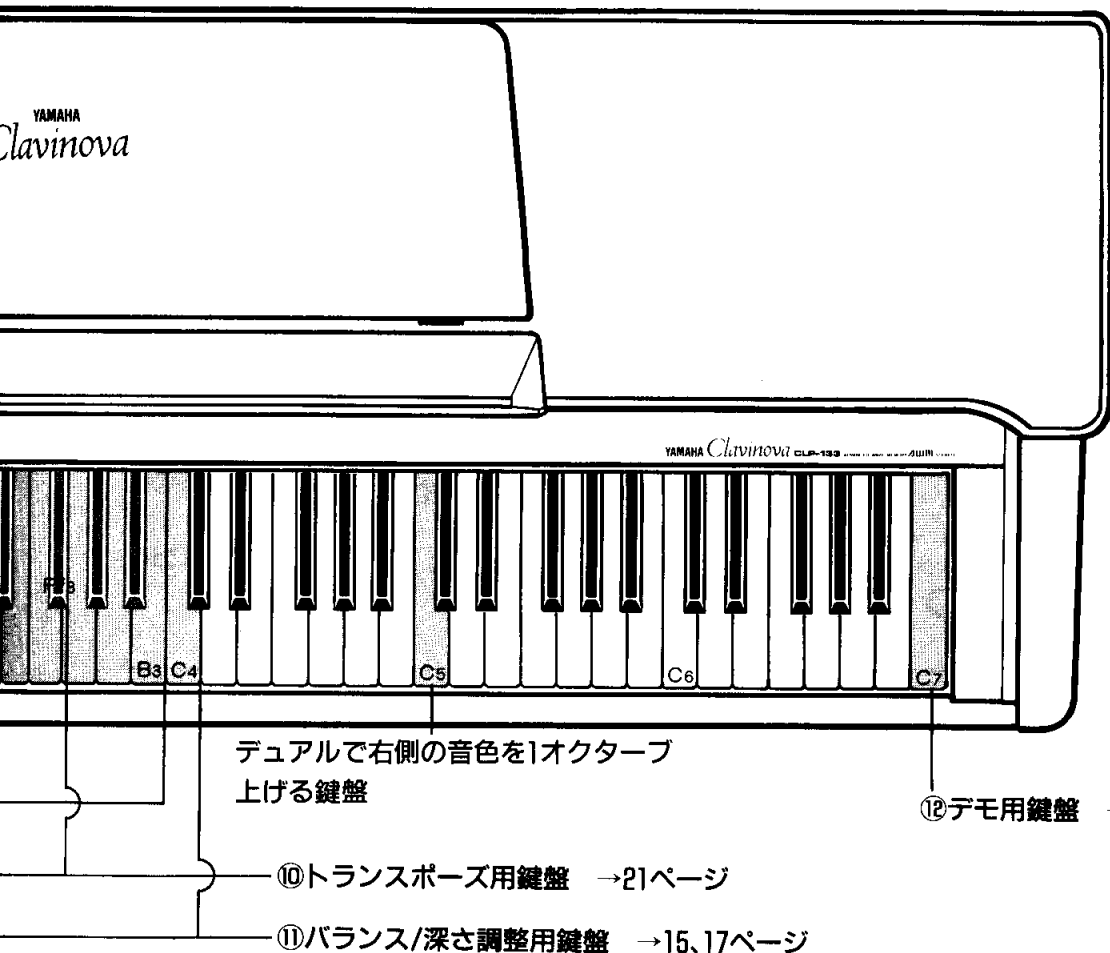
MIDI(ミディ)機能の設定をする時や、トランスポーズ(移調)の設定をするときに使用します。

### ⑥音色ボタン →6、17ページ

演奏に使う音色を選ぶことができます。同時に2つのボタンを押すことで、2つの音色を重ねて演奏することもできます。(デュアル機能 →17ページ)



リアパネルの説明は24ページをご覧ください。



**⑦ヘッドフォン端子(裏面にあります)**

ヘッドフォンを接続すると、クラビノーバのスピーカーからは音がでなくなりますから、夜間でも周りに迷惑をかけることはありません。2つのヘッドフォンを接続することができますので、お子様のレッスンをもう一人の方が確認したり、アンサンブルも可能です。

**⑧電源ランプ →6ページ**

電源を入れると点灯し、切ると消灯します。

**⑨ピッチコントロール用鍵盤 →22ページ**

ピッチ(音程)の設定で使用する鍵盤です。

**⑩トランスポーズ用鍵盤 →21ページ**

トランスポーズ(移調)の設定で使用する鍵盤です。

**⑪バランス/深さ調整用鍵盤 →15、17ページ**

デュアルモードでの音量バランスや、リバーブ効果の深さを設定する時に使用する鍵盤です。

**⑫デモ用鍵盤 →10ページ**

デモ演奏を楽しむ時に使用する鍵盤です。

基本編

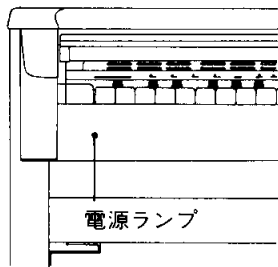
# さあ！弾いてみましょう

1

## 電源を入れる



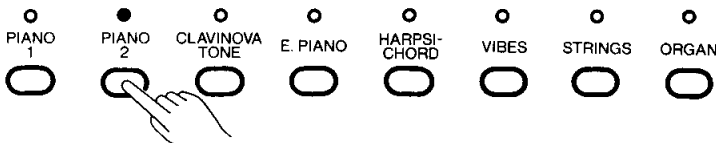
家庭用(AC100V)コンセントに電源プラグを差し込み、電源(POWER)スイッチを押して電源を入れます。



電源ランプが点灯します。

2

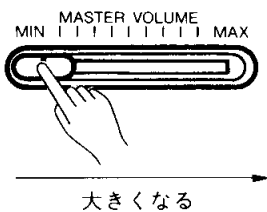
## 音色の指定



音色を選んで音色ボタンを押します。  
次ページの音色一覧表を参考にしてください。

3

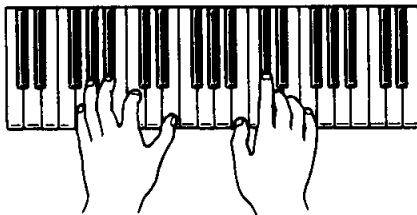
## 音量調節



ボリューム(MASTER VOLUME)で音量を調節します。

4

## 演奏



いろいろな音色に切り替えて、弾いてみましょう。  
次ページ以降に、音色のイメージにあった楽譜を用意しています。これらの楽譜を指定された音色で弾いてみましょう。



## 音色一覧表

音 色	解 説
ピアノ1 (PIANO 1) ピアノ2 (PIANO 2)	2種類のグランドピアノの音です。ピアノ1は、ステレオサンプリングされたダイナミックで豊かな響き、ピアノ2は明るめで張りのある音です。
クラビノーバトーン (CLAVINOVA TONE)	ストリングス風の温かい音色とハーブ風の固めの音をミックスした新しいイメージの音です。ドビュッシーなど、夢のあるムーディーな曲にお勧めです。
エレクトリックピアノ (E.PIANO)	エレクトリックピアノの音色です。固めのクリアーな音です。
ハーブシコード (HARPSICORD)	バロック音楽などでよく使われる、ピアノの原形ともいわれる鍵盤楽器ハーブシコードの音色です。
バイブ(VIBES)	ジャズなどでよく使われる、鉄琴の一種ビブラフォンの音色です。
ストリングス (STRINGS)	バイオリンなどの、弦楽器アンサンプルの音色です。
オルガン(ORGAN)	パイプオルガンの音色です。

🎵 補足 ・同時発音数は、ピアノ2は32音(32音ポリフォニック)、他の音色は16音(16音ポリフォニック)です。  
 ・クラビノーバにはさまざまな効果や機能がありますが、それらは後で順に紹介していきます。

次の楽譜を参考にして、それぞれの音色で演奏してみてください。

### ◆ピアノ1、2 (PIANO 1)、(PIANO 2)

#### トルコ行進曲

作曲：L.v. Beethoven

◆クラビノーバトーン(CLAVINOVA TONE)

恋におちて

作曲：小林明子

日本音楽著作権協会(出)許諾第9360070-301号

◆エレクトリックピアノ(E.PIANO)

ムーン・リバー

作曲：Henry Mancini

MOON RIVER from the Paramount film "BREAKFAST AT TIFFANY'S" Word by Johnny Mercer Music by Henry Mancini © 1961 by FAMOUS MUSIC CORP.  
All rights reserved. Used by permission. Authorized to NICHION, INC. for sale only in Japan. 日本音楽著作権協会(出)許諾第9360070-301号

◆ハーブシコード(HARPSICHORD)

主よ人の望みの喜びよ

作曲：J. S. Bach

◆バイブ(VIBES)

オリジナル



◆ストリングス(STRINGS)

アイネ・クライネ・ナハトムジーク

作曲：W.A. Mozart



◆オルガン(ORGAN)

もろびとこぞりて

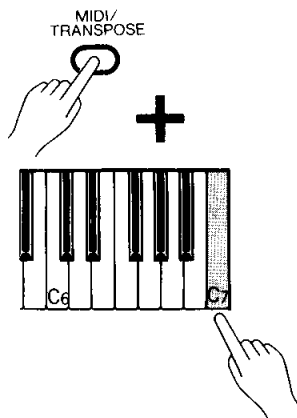
作曲：G. F. Händel



# デモ演奏を聴いてみましょう

CLP-133には、デモ演奏が各音色について1曲ずつ、合計8曲内蔵されており、いつでも自由に聴くことができます。

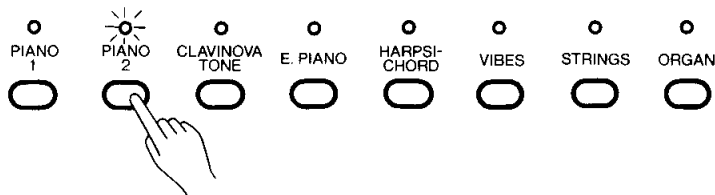
## 1 デモ演奏の選曲状態に入る



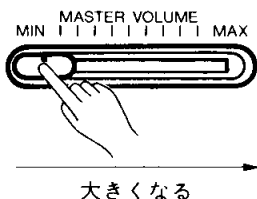
MIDI/トランスポーズ(MIDI/TRANSPOSE)ボタンを押しながら、C7(右端)の鍵盤を押します。すると、全音色ボタンの上のランプが点滅し、デモ演奏の選曲待ち状態になります。

## 2 曲をスタートさせる

次に、デモ演奏を聴きたい音色ボタンを押すと、その音色に応じたデモ演奏がスタートします。その後、ストップさせるまで音色ボタンの順番に連続演奏されます。デモ演奏中の音色ボタンをもう一度押すと、デモ演奏はストップし再び選曲待ちの状態に戻ります。

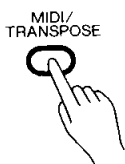


## 3 音量調節



ボリューム(MASTER VOLUME)で音量を調節します。

## 4 デモ演奏状態から抜ける



MIDI/トランスポーズボタンを押すと、デモ演奏状態から抜け、通常の状態に戻ります。

## デモ曲一覧表

音色	曲名	作曲者
ピアノ1 (PIANO 1)	華麗なる大円舞曲	ショパン
ピアノ2 (PIANO 2)	霧のレイクルイーズ*	倉本裕基
クラビノーバトーン(CLAVINOVA TONE)	夢	ドビュッシー
エレクトリックピアノ(E.PIANO)	オリジナル	—
ハーブシコード(HARPSICHORD)	インベンション第3番	バッハ
パイプ(VIBES)	オリジナル	—
ストリングス(STRINGS)	オリジナル	—
オルガン(ORGAN)	オルガン交響曲第5番 第5楽章	ヴェイドール

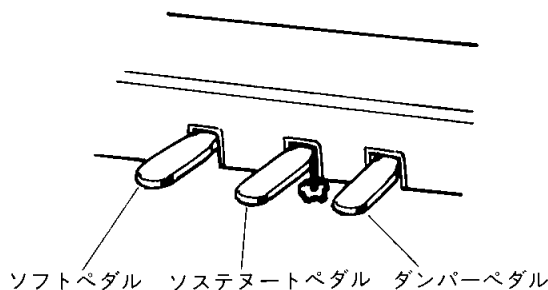
🎵 補足 ・デモ演奏は、1曲すべてでなく部分的に抜粋しているものもあります。

・デモ演奏を聴きながら、同じ音色で演奏することもできます。

\* 「霧のレイクルイーズ」の楽譜は、ドレミ楽譜出版社のPiano Solo「倉本裕基／スペシャル・コレクション」およびPiano Solo「倉本裕基 Rêverie／夢の窓辺に」という曲集に掲載されています。

# ペダル効果

CLP-133のスタンド部分には、ピアノと同じようにダンパー、ソステヌート、ソフトというペダルがついています。各ペダルの効果をうまく使い分けましょう。



## 7 ダンパーペダル

アコースティックピアノを演奏する際に最もよく使うペダルです。ペダルを踏むと、すべての音に余韻がかかります。ピアノ1、2ではリバーブの設定がオフの時、アコースティックピアノの弦と響板の響きをシミュレートした共鳴効果がかかります。ペダルを踏み込むほど8段階に音の余韻が長くなり、響きが豊かになります。

音色をピアノ1にして、次の楽譜の◎の印でダンパーペダルを踏み、効果を確認してください。

### オーラ・リー

アメリカ民謡

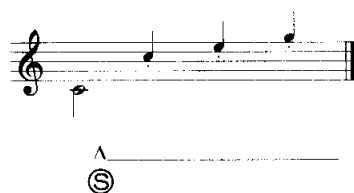
The musical score consists of two systems of piano accompaniment. Each system has a treble and bass staff. The bass line includes four damper pedal markings, represented by a circle with an upward-pointing arrow and a circled 'D' below it, indicating when to press the damper pedal.

---

## ② ソステヌートペダル

ペダルを踏んだ時に押さえていた鍵盤の音だけに余韻が付きます(ソステヌート効果)。ペダルを踏んだ後に弾いた音には、余韻は付きません。  
低音部の音だけを響かせながら、右手でメロディーを弾くときなどに使用します。

音色をピアノ1にして、初めの「ド」を弾いた直後にソステヌートペダルを踏み、効果を確認してください。初めの「ド」の音だけがのびたのがわかりますね。ソステヌート効果は、ドビュッシーの「月の光」などに使われています。

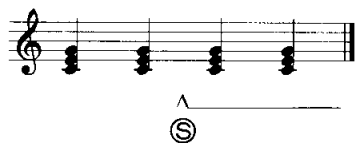


---

## ③ ソフトペダル

音量がわずかに下がると同時に、音の響きが柔らかくなります。

音色をピアノ1にして、⑤のマークからソフトペダルを踏み、効果を確認してください。音の響きを柔らかくしたいところで使うと効果的です。



---

# ブリリアンス効果

音の明るさ(音質)を3段階に変えることができます。

---

## ●ブリリアンス効果の設定




ブリリアンス(BRILLIANCE)ボタンを何度か押して、希望するブリリアンスのランプを点灯させてください。ボタンを押すたびに次のように切り替わります。

**メロー(MELLOW)** ……柔らかく、まろやかな音になります。

**ノーマル(NORMAL)** …標準状態です。

**ブライツ(BRIGHT)** ……明るく、鋭い音になります。

---

 **補足** ・電源を入れた時、ブリリアンスはノーマルになっています。



# リバーブ効果

リバーブは、音に残響を付け加えて、音の響きを豊かにする効果です。

## 1 リバーブのタイプの設定

- REVERB
- ROOM
- HALL 1
- HALL 2
- COSMIC



リバーブ(REVERB)ボタンを何度か押して、希望するリバーブのランプを点灯させてください。

ボタンを押すごとに、次のように切り替わります。

**オフ(ランプ消灯)**……………リバーブはかかりません。ピアノ1、2の音色の時はダンパーペダルを踏むと、アコースティックピアノの弦と響板の響きをシミュレートした共鳴効果がかかります。

**ルーム(Room)**……………響きやすい部屋の中で弾いた時のような音になります。

**ホール1(HALL 1)**……………小さなコンサートホールで弾いた時のような音になります。

**ホール2(HALL 2)**……………大きなコンサートホールで弾いた時のような音になります。

**コスミック(COSMIC)**…こだまのような響きに加わった音になります。

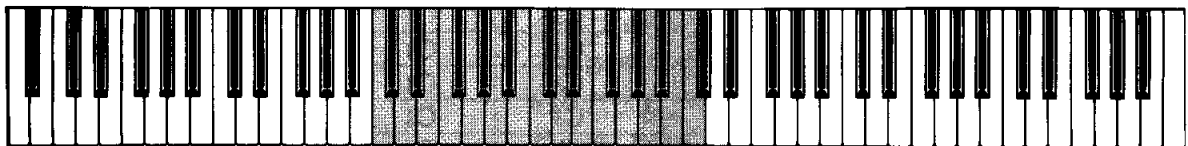
リバーブのタイプは、全音色に共通の設定です。

## 2 リバーブの深さ調整

- REVERB
- ROOM
- HALL 1
- HALL 2
- COSMIC



+



リバーブボタンを押しながら、C<sub>2</sub>~C<sub>4</sub>の鍵盤を押すことで、音色およびリバーブのタイプごとに(次ページの表を参照)、リバーブの深さ(かかり具合)を調整することができます。

C<sub>2</sub>で最小、C<sub>4</sub>で最大となります。

基本編

### 3

## 効果を確認しよう

それでは、リバーブを切り替えながら次の楽譜を演奏して、効果を実際に確かめてみましょう。

### ロンドン橋

イギリス民謡

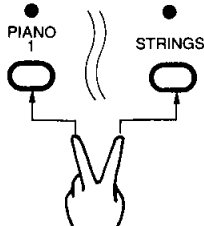
- 🎵 補足 ・設定は、電源をオフにするまで記憶されます。
- ・ダンパーペダルによる共鳴効果の深さは固定です。
  - ・リバーブのタイプは全音色に共通の設定です。電源オン時には、オフとなっています。
  - ・リバーブの深さは音色およびリバーブのタイプごとに設定できます。電源オン時には、リバーブの深さは下表の鍵盤を押して設定した深さになっています。

音色 \ タイプ	ルーム	ホール1	ホール2	コスミック
ピアノ1	C3	C3	C3	C3
ピアノ2	C3	C3	C3	C3
クラビノーバトーン	C3	C3	C3	C3
エレクトリックピアノ	C3	C3	C3	C3
ハーブシコード	C3	C3	C3	C3
パイプ	C3	C3	C3	C3
ストリングス	C3	C3	F3	E3
オルガン	C3	C3	F3	E3

# デュアル機能

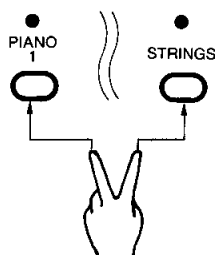
2つの音色を選んで、重ねて演奏することができます。

## 1 デュアル状態に入る

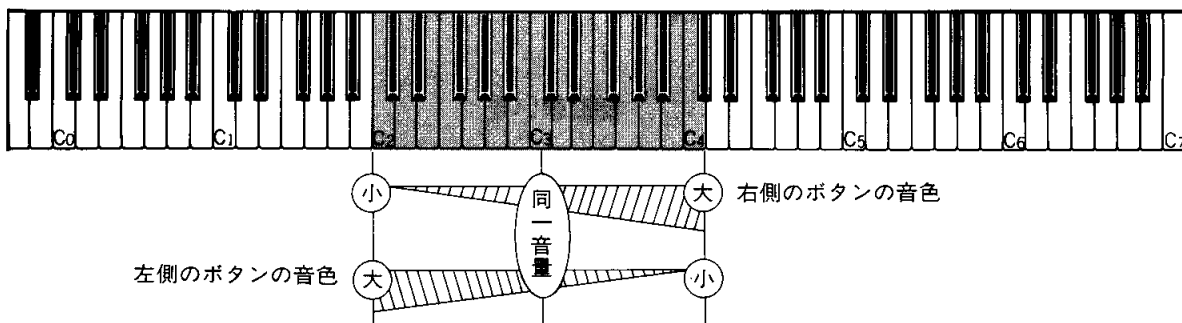


組み合わせたい2つの音色ボタンを同時に押します。

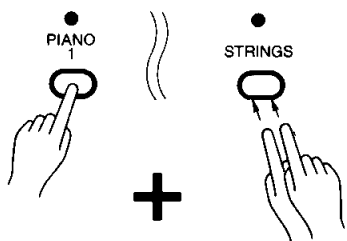
## 2 音量バランスの設定



組み合わせたい2つの音色ボタンを押しながら、C2~C4の鍵盤を押すことで、2つの音色の音量バランスを設定できます。



## 3 スtringsの立ち上がりの設定

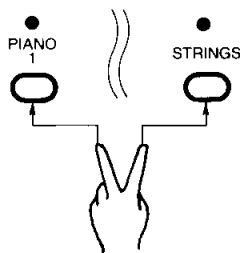


2つの音色の片方の音にストリングスを選んだ場合、ストリングスのアタック(音の立ち上がる速さ)を、スローアタック(ゆっくりとした立ち上がり)に切り替えることができます。電源をオンにした時はノーマルアタック(標準的な立ち上がり)になっています。

組み合わせたい2つの音色ボタン(片方はストリングスのボタン)を押し、ストリングスのボタンだけを一度離して、もう一度押し直すことで、ストリングスのアタックを切り替えることができます。



## 片方を1オクターブ上げる設定

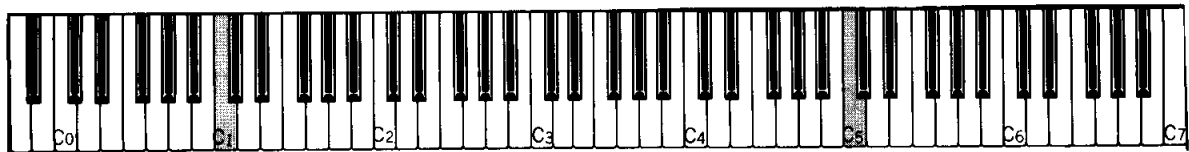


組み合わせた2つの音色ボタンを押しながら、

C5の鍵盤を押すと …音色ボタンが右側に配置されている音色が、1オクターブ上がります。

C1の鍵盤を押すと …音色ボタンが左側に配置されている音色が、1オクターブ上がります。

いずれの場合も、もう一度同じ操作をすると、元の音程に戻ります。



左側のボタンの音色が上がる

右側のボタンの音色が上がる



## デュアルで演奏してみよう

それでは、ピアノ1とストリングスのデュアル状態、ストリングスをスローアタックにして、次の楽譜を演奏してみましょう。

### 星に願いを

作曲：Leigh Harline



WHEN YOU WISH UPON A STAR Words by Ned Washington Music by Leigh Harline © 1940 by BOURNE CO.(Renewed 1961) International Copyright Secured. All Rights Reserved. The Rights for Japan Administered by HIGH NOTE PUBLISHING CO., LTD. 日本音楽著作権協会(出)許諾第9360070-301号

- 🎵 補足
- ・設定は、電源をオフにするまで記憶されます。
  - ・電源オン時には、ストリングスのアタックはノーマルアタックになっています。
  - ・音量バランスとオクターブの切り替えは、音色の組み合わせごとに設定できます。電源オン時には、下表のようになっています。

		音量バランス(表の鍵盤を押して設定した/バランス)							
		ピアノ	ピアノ2	クラビノーバ トーン	エレクトリック クビアン	ハーブ コード	パイプ	ストリングス	オルガン
オ ク タ ー ブ の 設 定	ピアノ		C <sub>3</sub>	C <sub>3</sub>	C <sub>3</sub>	C <sub>3</sub>	C <sub>3</sub>	F <sub>2</sub>	E <sub>2</sub>
	ピアノ2	0		C <sub>3</sub>	C <sub>3</sub>	C <sub>3</sub>	C <sub>3</sub>	F <sub>2</sub>	E <sub>2</sub>
	クラビノーバ トーン	0	0		C <sub>3</sub>	C <sub>3</sub>	C <sub>3</sub>	F <sub>2</sub>	F <sub>2</sub>
	エレクトリック クビアン	0	0	0		C <sub>3</sub>	C <sub>3</sub>	F <sub>2</sub>	E <sub>2</sub>
	ハーブ コード	0	0	0	0		C <sub>3</sub>	F <sub>2</sub>	G <sub>2</sub>
	パイプ	R	R	R	R	R		B <sub>2</sub>	B <sub>2</sub>
	ストリングス	0	0	0	0	0	L		C <sub>3</sub>
	オルガン	0	0	0	0	0	L	0	

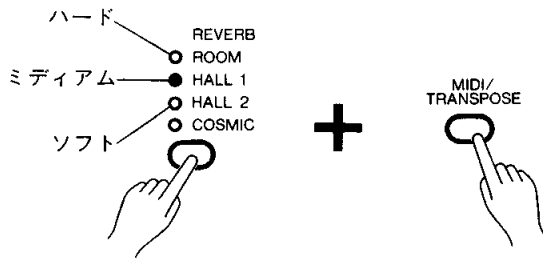
0 : 同一オクターブ  
L : 左側音色1オクターブ上  
R : 右側音色1オクターブ上

C<sub>2</sub> : 左側音色最大音量/右側音色最小音量(0)  
⋮  
C<sub>3</sub> : 同一音量  
⋮  
C<sub>4</sub> : 左側音色最小音量(0)/右側音色最大音量

## タッチセンシティブィティ調節機能

弾く強さによる音の強弱の変化の度合い(感度)を、3種類の中から選ぶことができます。  
(鍵盤自体の重さは変わりません。)

### ● タッチ感度の選択



MIDI/トランスポーズ(MIDI/TRANSPOSE)ボタンを押しながら、リバーブ(REVERB)ボタンを押すごとに、左図のように感度が切り替わります。希望する感度に対応するランプを点灯させてください。ボタンを押すごとに次のように切り替わります。

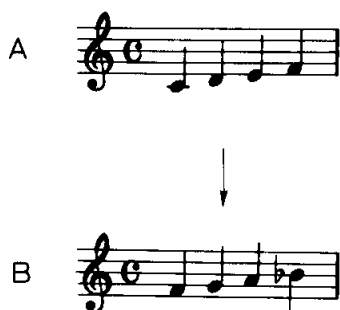
ハード……………強く弾かないと小さめの音になります。  
ミディアム…通常のピアノタッチです。  
ソフト……………弱く弾いても大きめの音になります。

- 🎵 補足 ・音色によっては、効果の少ないものもあります。  
・設定は電源をオフにするまで記憶され、電源オン時にはミディアムに戻ります。

# トランスポーズ（移調）機能

押さえる鍵盤を変えずに、歌う人の声や他の楽器の高さに、キー（調）を合わせることができます。（つまり、弾く鍵盤の位置と発音される音の高さをずらすことができます。）

±6半音の範囲でずらすことができます。つまり、「ド」の音なら高い方に最大で「ファ#」（半オクターブ上）まで、低い方も最大で「ファ#」（半オクターブ下）までずらすことができます。たとえば、+5半音ずらす（完全4度上げる）と、下の楽譜Aを弾くと、楽譜Bのように鳴ります。



## ● 移調量の設定方法

①MIDI/トランスポーズ(MIDI/TRANSCOPE)ボタンを押しながら、

②F#<sub>2</sub>~F#<sub>3</sub>の鍵盤を押さえます。

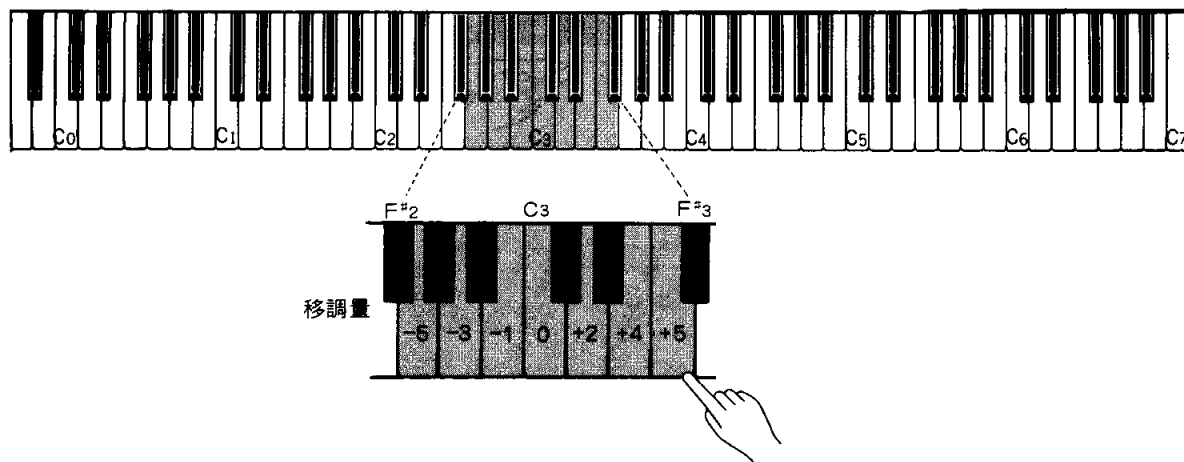
F#<sub>3</sub>の鍵盤……………+6半音に設定されます。

↑  
C<sub>3</sub>の鍵盤……………標準状態です。

↓  
F#<sub>2</sub>の鍵盤……………-6半音に設定されます。



+



🎵 補足 ・設定は電源をオフにするまで記憶され、電源オン時には標準状態に戻ります。

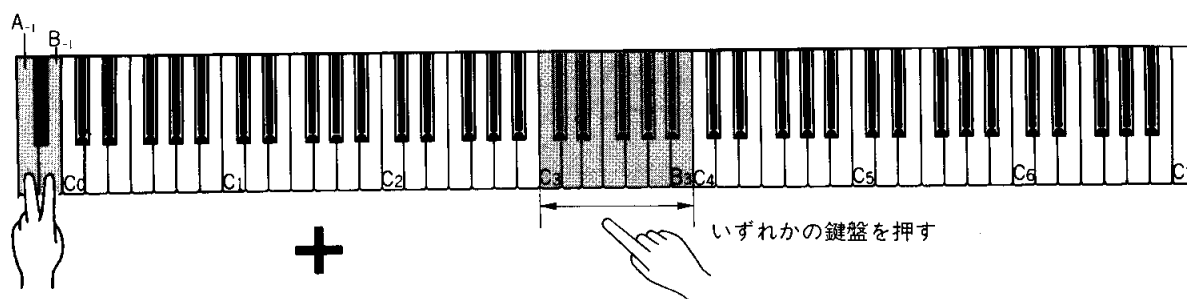
# ピッチコントロール機能

合奏の時などに、音程(ピッチ)を正確に合わせるための機能です。他の楽器と微妙に音程が異なる場合は、この機能を使って音の高さを合わせます。



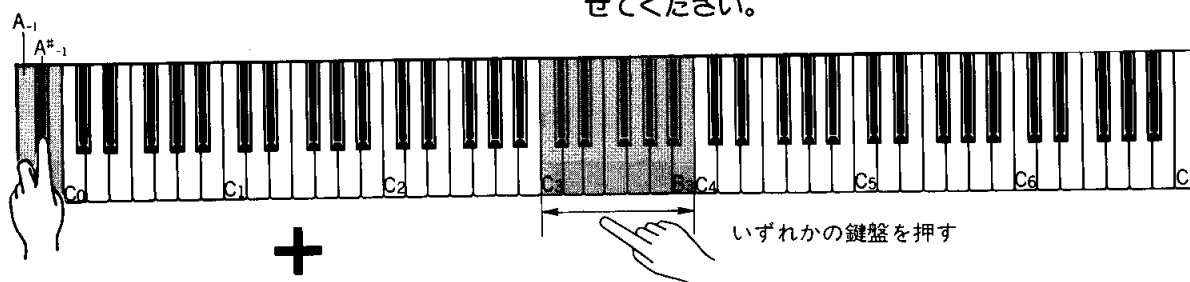
## 音程を上げる時

- ①A<sub>-1</sub>とB<sub>-1</sub>の鍵盤(左端の白鍵2つ)を同時に押しながら、
- ②C<sub>3</sub>~B<sub>3</sub>のいずれかの鍵盤を押します。  
1回押すごとに少しずつ音程が上がっていきます。  
音を聴きながらこきざみに音程を上げて、他の楽器と合わせてください。



## 音程を下げる時

- ①A<sub>-1</sub>とA<sup>#</sup><sub>-1</sub>の鍵盤(左端の白鍵と黒鍵)を同時に押しながら、
- ②C<sub>3</sub>~B<sub>3</sub>のいずれかの鍵盤を押します。  
1回押すごとに少しずつ音程が下がっていきます。音を聴きながらこきざみに音程を下げて、他の楽器と合わせてください。



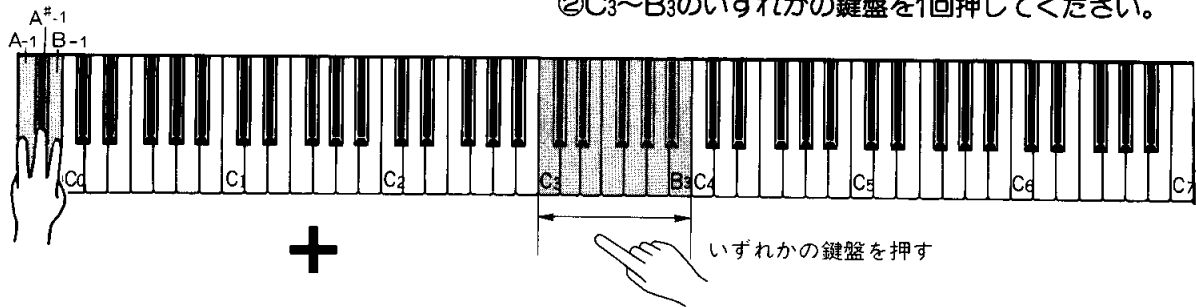


### 3

## 標準状態に戻す時

①A-1とA<sup>#</sup>-1とB-1の3鍵盤(左端の白鍵2つと黒鍵1つ)を同時に押しながら、

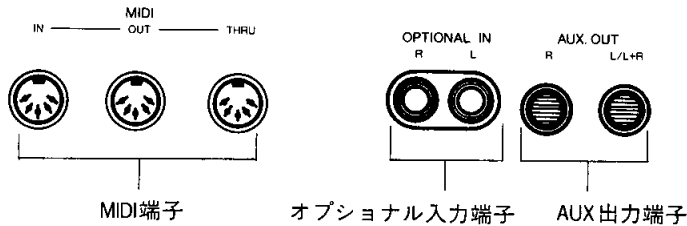
②C<sub>3</sub>~B<sub>3</sub>のいずれかの鍵盤を1回押してください。



- 補足**
- ・音程は、±約50セントの範囲を約1.2セントきざみで設定できます。(100セント=半音)
  - ・標準状態の時、A<sub>3</sub>=440Hzです。
  - ・MIDIのローカルコントロールがオフ(30ページ参照)の時は、ピッチコントロールの設定はできません。
  - ・設定は電源をオフにするまで記憶され、電源オン時には標準状態に戻ります。

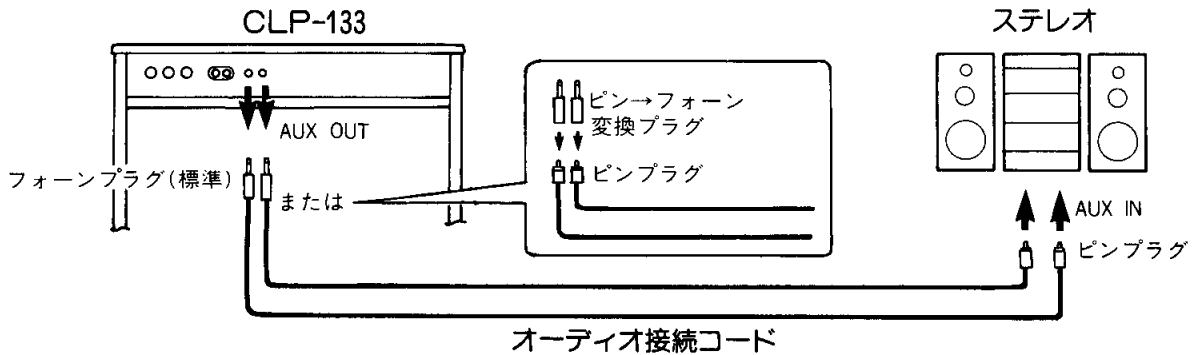
# 他の機器と接続する

リアパネルの付属端子を使って、各機器と接続できます。



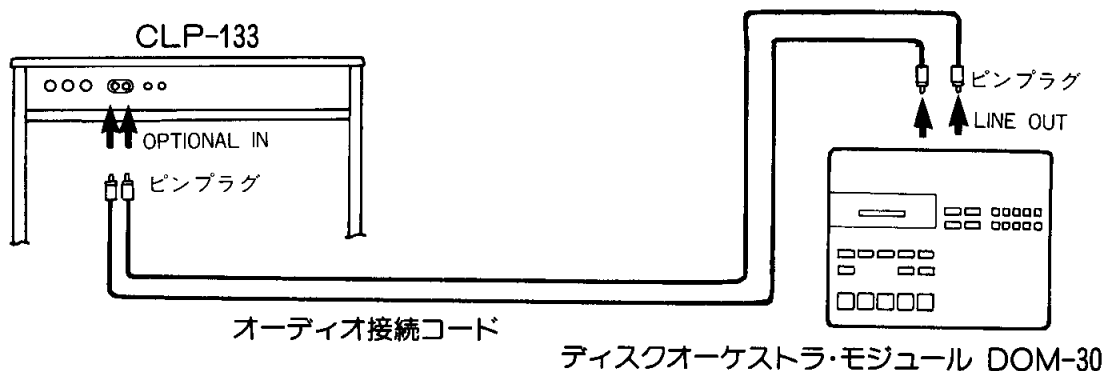
## ◆ AUX出力(AUX OUT)端子……フォーンジャック(標準)

ステレオなどに接続して、より大きな音を出したり、演奏を録音することができます。ステレオに接続した時は、クラビノーバのボリューム(MASTER VOLUME)を半分くらいにして、ステレオのボリュームで音量を調節してください。



## ◆ オプション入力(OPTIONAL IN)端子……ピンジャック

他の楽器や機器の音をクラビノーバでいっしょに鳴らすことができます。

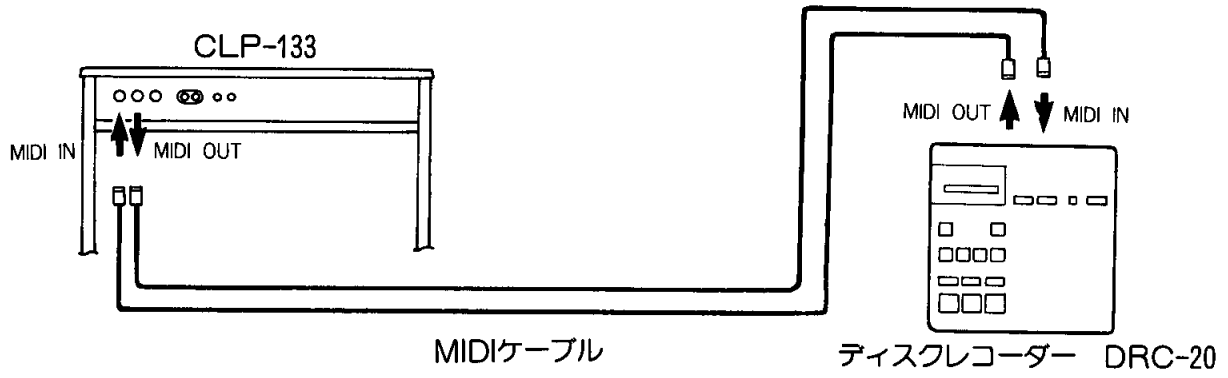


🎵 補足 ・オーディオ接続コードおよび変換プラグは、抵抗のないものをお使いください。

---

◆ MIDI(MIDI IN, OUT, THRU)端子

DOM-30、DRC-20などのMIDI機器を接続します。



# MIDIについて

ここでは、まずMIDI端子の説明やMIDI機能を使ってできることなど順に紹介します。

## 1. MIDIとは?

MIDI(ミティ)という言葉は、「Musical Instrument Digital Interface」の頭文字をとったものです。日本語に訳せば「楽器間のデジタル通信」ということになります。

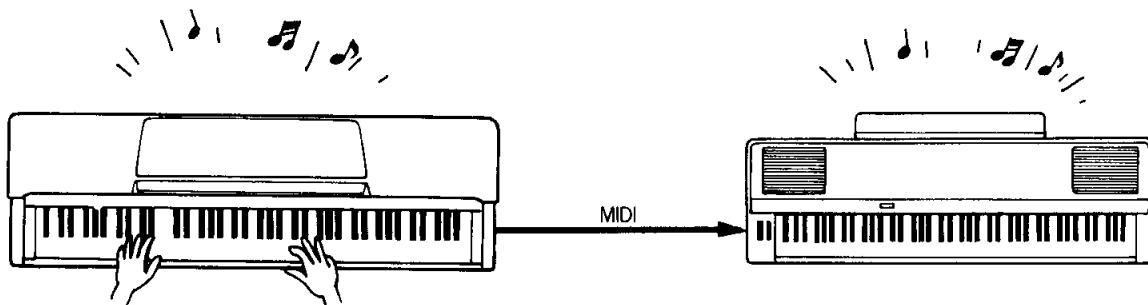
MIDIとは2台以上の楽器をつないで、それらの中で、演奏に関連するさまざまなコントロールをさせようという目的で考え出された世界共通の規格です。

世界共通の規格ですから、メーカーの異なる楽器間でもMIDI規格の楽器であれば互いにコントロールすることが可能です。

## 2. MIDIの能力

では、MIDIを使うと、具体的にどんな事ができるのでしょうか?

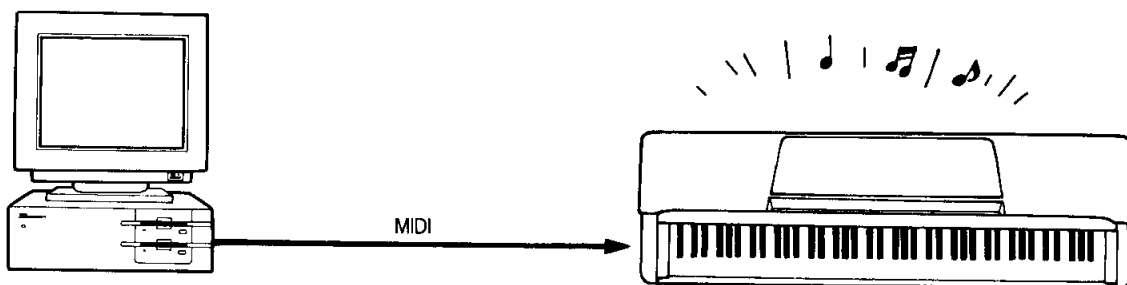
1台のキーボードを演奏することによって、他のキーボードを同時に鳴らすことができます。また、音色の切り替えや、ダンパーペダルのオン/オフなど、さまざまな効果もあわせてコントロールできます。



機種によりMIDIでコントロールできる内容は異なります。接続する機種に共通のMIDI機能についてのみ、コントロールできます。

コンピューターやシーケンサーにMIDIの演奏情報を記録しておけば、MIDI楽器に自動演奏をさせることができます。

(MIDIの演奏情報を記録する機器を、一般にシーケンサーと呼んでいます。)



ここに示した以外にも、いろいろな使い方があります。

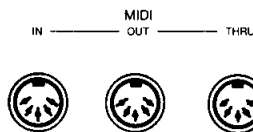
### 3. MIDIの約束ごと

#### ① MIDI端子

MIDI情報のやり取りには、専用のMIDIケーブルを使います。MIDI楽器には、このMIDIケーブルをつなぐために、専用のMIDI端子がついています。

このMIDI端子には以下の3つの種類があります。

イン(IN)端子 ……………MIDI情報を受け取るための端子です。  
アウト(OUT)端子 ……………MIDI情報を出すための端子です。  
スルー(THRU)端子 ……………INから入ってきたMIDI情報を、そのまま出す端子です。MIDI情報を他の楽器にも伝達することができます。



MIDIケーブルで、情報を送り出す機器のアウト端子(またはスルー端子)と、情報を受ける機器のイン端子を結線します。

#### ② MIDIチャンネル

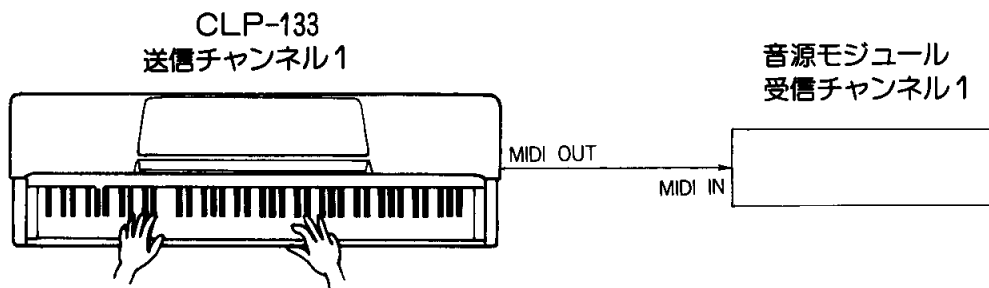
テレビの放送にチャンネルがあるように、MIDIの情報にもチャンネルがあります。

MIDIで情報のやり取りをするには、MIDIチャンネルを合わせる必要があります。というのは、MIDI情報のほとんどが、それぞれの情報にチャンネルが指定されて送られているからです。(チャンネルのついていないMIDI情報もあります。)

MIDIチャンネルには、1~16までの16種類があり、送る側でどのチャンネルで情報を送るか設定できるようになっています。この送る側のチャンネルを「送信チャンネル」と呼んでいます。

また、受け手側も何チャンネルの情報を受けするかを設定できるようになっています。この受ける側のチャンネルを「受信チャンネル」と呼んでいます。

たとえば、下の図のようにCLP-133を演奏して音源モジュールを鳴らそうとすると、CLP-133の送信チャンネルと音源モジュールの受信チャンネルを合わせなければいけません。MIDIケーブルが正しく接続されていても、このチャンネルが合っていないと、送り手側からのMIDI情報に受け手側は反応しない仕組みになっているのです。



受信チャンネルには、1~16チャンネル以外にもう1つの状態があります。その状態とは「オムニ(OMNI)モード」と呼ばれるものです。このオムニモードがオンの設定になっていると、すべてのチャンネルの情報を受けます。

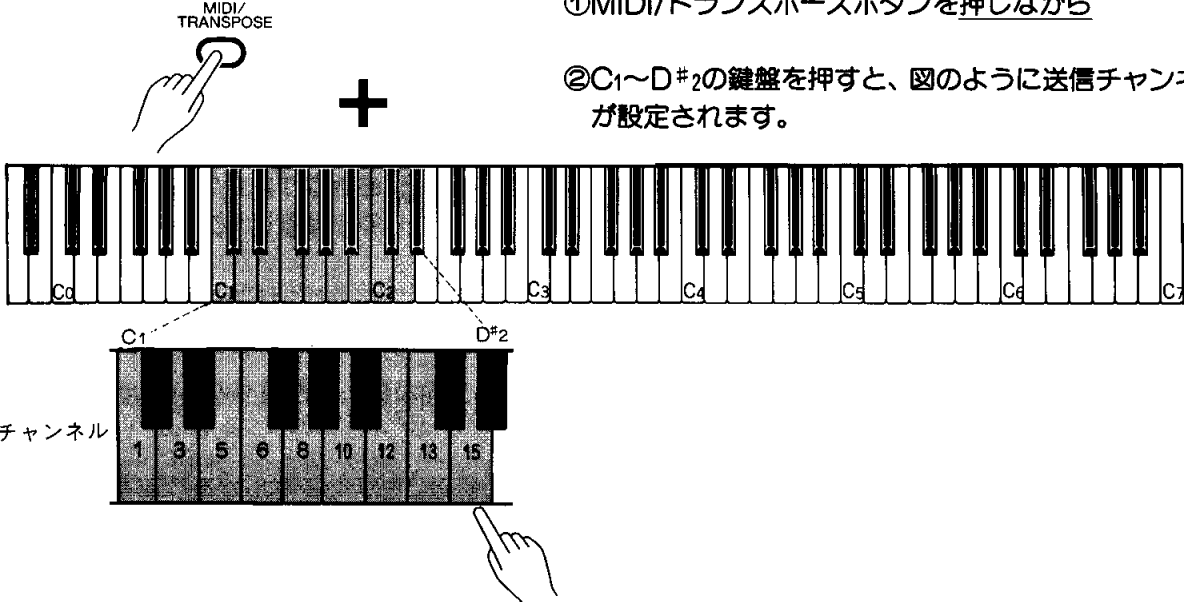
CLP-133は電源をオンにした時には、送信(MIDI OUT)は1チャンネル、受信(MIDI IN)はオムニモード・オンになっています。

# MIDIチャンネルの設定

MIDIの送信チャンネル、受信チャンネルの設定方法を紹介します。

## 1. 送信チャンネルの設定

MIDI/TRANSPOSE



①MIDI/トランスポーズボタンを押しながら

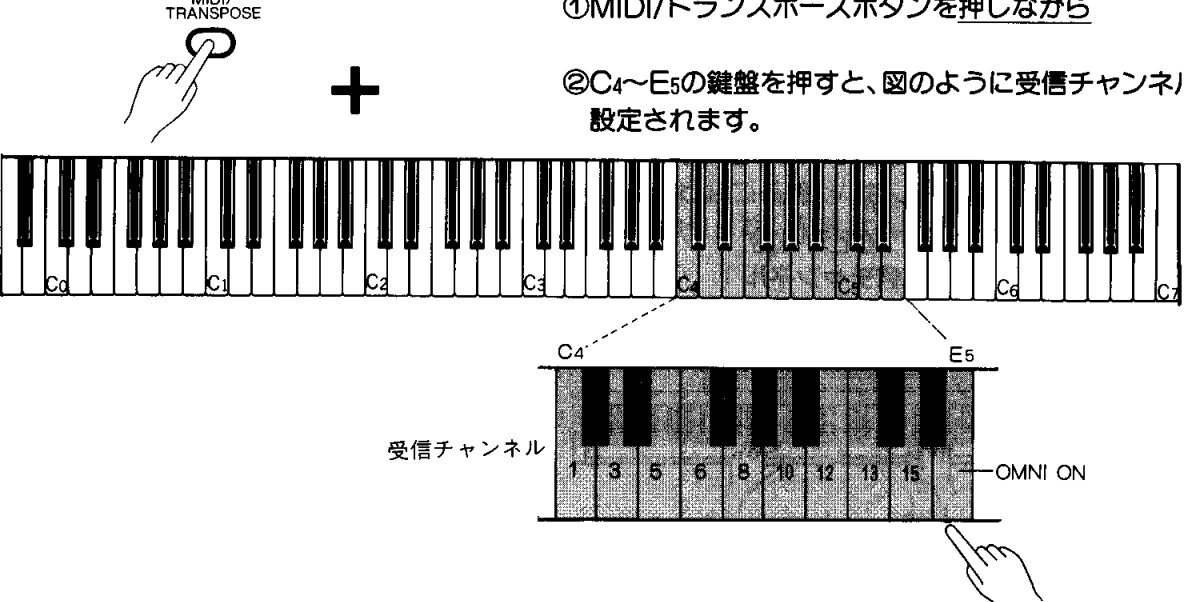
②C1~D#2の鍵盤を押すと、図のように送信チャンネルが設定されます。

送信チャンネル

1	3	5	6	8	10	12	13	15
---	---	---	---	---	----	----	----	----

## 2. 受信チャンネルの設定

MIDI/TRANSPOSE



①MIDI/トランスポーズボタンを押しながら

②C4~E5の鍵盤を押すと、図のように受信チャンネルが設定されます。

受信チャンネル

1	3	5	6	8	10	12	13	15	OMNI ON
---	---	---	---	---	----	----	----	----	---------

- 🎵 補足
- ・MIDI受信チャンネルが、オムニ・オンに設定されていると、すべてのチャンネルの情報を受信します。
  - ・電源をオンにした時は、送信チャンネルはチャンネル1に、受信チャンネルはオムニ・オン/チャンネル1に戻っています。

# MIDIトランスポーズの設定

本体で鳴る音には影響を与えずに、MIDI出力するデータだけにトランスポーズ(移調)をかける方法を紹介します。

## ● MIDIトランスポーズの設定

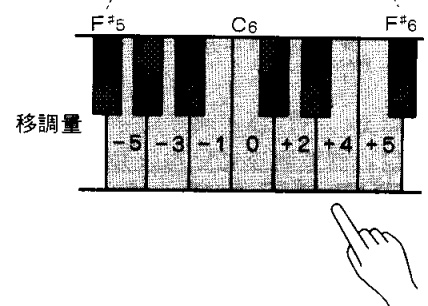
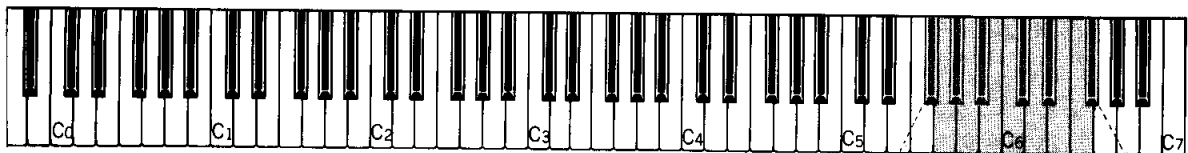
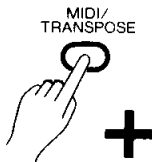
①MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、

②F#<sub>5</sub>~F#<sub>6</sub>の鍵盤を押さえます。

F#<sub>6</sub>.....MIDI出力するデータだけが+6半音に設定されます。

↑  
C<sub>6</sub> .....標準状態です。

↓  
F#<sub>5</sub>.....MIDI出力するデータだけが-6半音に設定されます。



### ◆ MIDIトランスポーズ機能を使った例

- ・他の音源をトランスポーズして、CLP-133の音とハーモニーをつけて演奏する。
- ・他の音源をトランスポーズして鳴らす。CLP-133の音を出したくない時は、ローカルコントロール・オフ（次ページ参照）にします。

# その他のMIDI設定

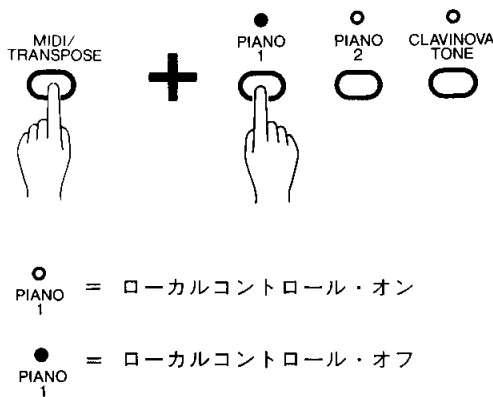
MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、次のボタンを押すことで、それぞれの機能に入ります。

- ピアノ1 .....ローカルコントロール・オン/オフ
- ピアノ2 .....プログラムチェンジ・オン/オフ
- クラビノーバトーン.....コントロールチェンジ・オン/オフ
- エレクトリックピアノ.....マルチティンバー・オン/オフ
- ハーブシコード.....MIDIスプリット&レフトローカル・オフ
- パイプ.....MIDIスプリット&ライトローカル・オフ
- ストリングス.....パネルデータの送信

## 1. ローカルコントロール・オン/オフ

CLP-133の内部で、鍵盤部分と音源部分を電氣的に切り離すかどうかの設定です。

ローカルコントロールをオフにすると、鍵盤と音源が切り離されるため、鍵盤を弾いても音が鳴らなくなります。CLP-133本体を鳴らさずに、MIDIで他の音源をコントロールしたい時だけオフの設定にしてください。



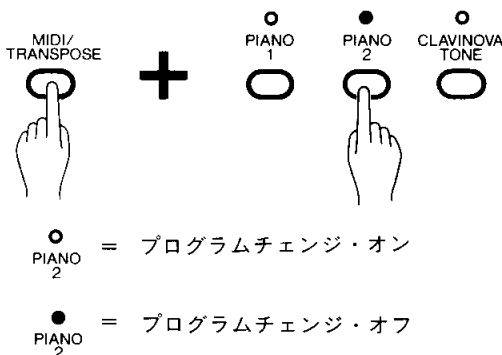
### オン/オフの切り替え

- ・ MIDI/トランスポーズ(MIDI/TRANSPOSE)ボタンを押しながら、ピアノ1(PIANO 1)ボタンを押すたびに、オン/オフが切り替わります。
- ローカルコントロール・オンでピアノ1のランプが消灯、オフにすると点灯します。
- ・ 電源オン時は、オンに設定されています。

## 2. プログラムチェンジ・オン/オフ

MIDIの音色切り替えの信号を送受信するかしないかの設定です。

プログラムチェンジをオフにすると、MIDI音色切り替えの信号を受け取っても、音色は切り替わらなくなります。また、CLP-133から他のMIDI音源に対する音色切り替えもできなくなります。

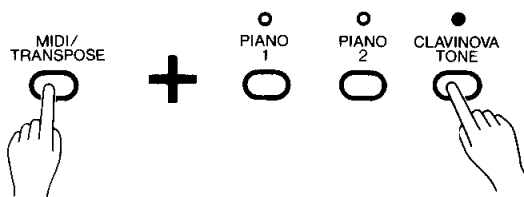


### オン/オフの切り替え

- ・ MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、ピアノ2(PIANO 2)ボタンを押すたびに、オン/オフが切り替わります。
- プログラムチェンジ・オンでピアノ2のランプが消灯、オフにすると点灯します。
- ・ 電源オン時は、オンに設定されています。



### 3. コントロールチェンジ・オン/オフ



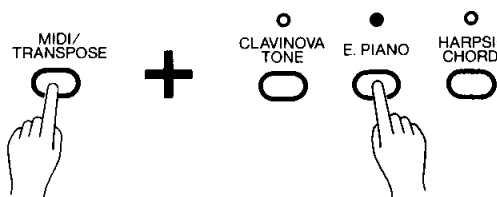
○ CLAVINOVA TONE = コントロールチェンジ・オン  
 ● CLAVINOVA TONE = コントロールチェンジ・オフ

ダンパーペダル、ソステヌートペダル、ソフトペダルのオン/オフの信号をはじめとする、MIDIのコントロールチェンジ信号を送受信するかどうかの設定です。コントロールチェンジをオフにすると、ペダル操作などのコントロールチェンジの情報(37ページ参照)をMIDIでコントロールできなくなります。

#### オン/オフの切り替え

- ・MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、クラビノーバトーン (CLAVINOVA TONE) ボタンを押すたびに、オン/オフが切り替わります。コントロールチェンジ・オンでクラビノーバトーンのランプが消灯、オフにすると点灯します。
- ・電源オン時は、オンに設定されています。

### 4. マルチティンバー・オン/オフ



○ E. PIANO = マルチティンバー・オフ  
 ● E. PIANO = マルチティンバー・オン

CLP-133をマルチティンバーモードにするかどうかの設定です。

マルチティンバーをオンにすると、シーケンサーに別々のチャンネルで記録されているさまざまなパートの演奏情報を、CLP-133本体1台で同時に演奏することができます。

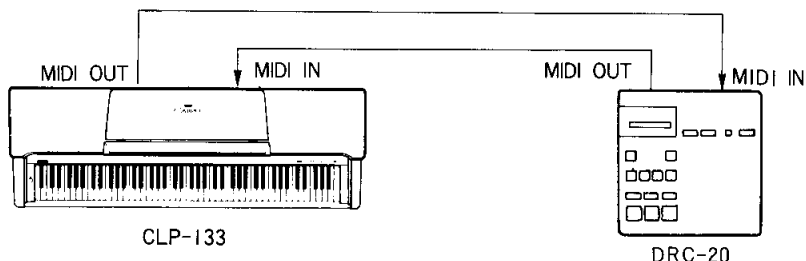
#### オン/オフの切り替え

- ・MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、エレクトリックピアノ (E.PIANO) ボタンを押すたびに、オン/オフが切り替わります。マルチティンバー・オフでエレクトリックピアノのランプが消灯、オンにすると点灯します。
- ・電源オン時は、オフに設定されています。

#### ◆ マルチティンバー機能を使った例

マルチティンバー機能を使った例の一つとして、複数のパートによるアンサンブル演奏をディスクレコーダー DRC-20に録音し、録音した各パートの演奏をCLP-133の中の異なった音色で再生する場合は紹介します。

①CLP-133とDRC-20を、図のように接続します。



②CLP-133をマルチティンバー・オンにします。

③DRC-20のトラック1を録音状態にします。

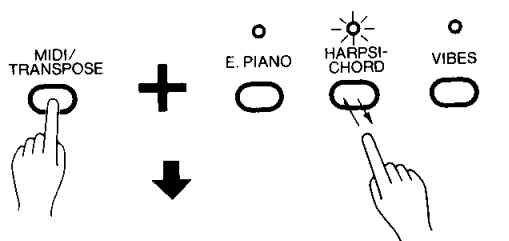
④CLP-133で音色を選び、DRC-20に第1パートを録音します。

⑤DRC-20のトラック2を録音状態にします。

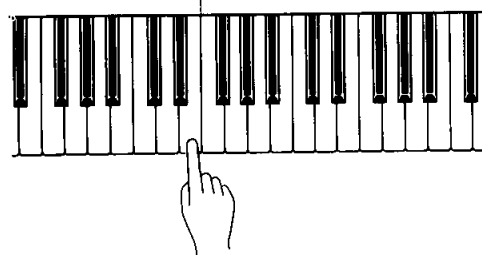
⑥CLP-133で音色を選び、DRC-20に第2パートを録音します。

⑦CLP-133をマルチティンバー・オンにしたままDRC-20を再生させます。録音中に選択したそれぞれの音色を使って、録音したパートが完全なアンサンブルの音になって再生されます。

## 5. MIDIスプリット&レフトローカル・オフ



クラビノーバ本体の音は出ない ← クラビノーバ本体の音が出る →



○  
HARPSI-  
CHORD

= 通常の状態

●  
HARPSI-  
CHORD

= MIDIスプリット &  
レフトローカル・オフ

ある鍵盤を境にして、左側の鍵盤の音をクラビノーバ本体では鳴らなくにする機能です。音源モジュールなどのMIDI機器を用意すると、左側の鍵盤でMIDI機器をコントロールし、右側の鍵盤でクラビノーバ本体を鳴らすといった演奏が可能になります。

また、境になる鍵盤(スプリットポイント)も、設定することができます。

### 設定方法

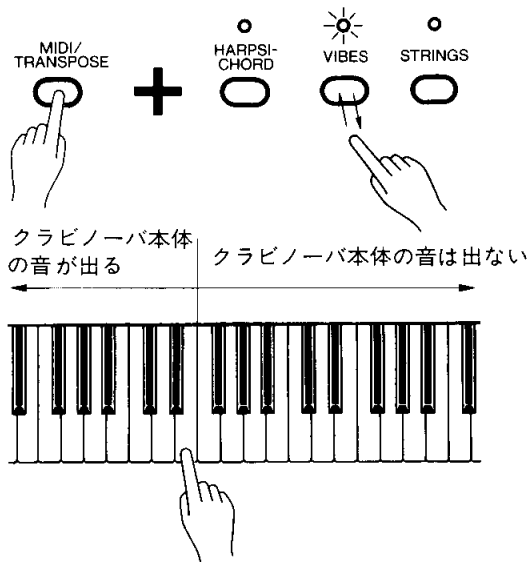
①MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、ハーpsiコード(HARPSICHORD)ボタンを押します。すると、ハーpsiコードのランプが点滅を始めます。

②引き続きMIDI/トランスポーズボタンを押したまま、スプリットポイントにしたい鍵盤を押します。すると、ハーpsiコードのランプが点灯し、MIDIスプリット&レフトローカル・オフの状態になります。

③MIDI/トランスポーズボタンを離します。

④再びMIDI/トランスポーズボタンを押しながら、ハーpsiコードボタンを押すと、通常の状態に戻ります。

## 6. MIDIスプリット&ライトローカル・オフ



- = 通常の状態  
VIBES
- = MIDIスプリット &  
VIBES レフトローカル・オフ

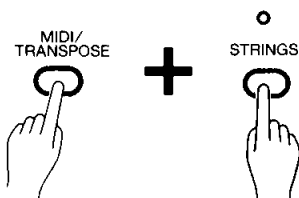
前項のMIDIスプリット&レフトローカル・オフは左側の鍵盤の音が本体から出ないようにする機能でしたが、この機能は逆に右側の鍵盤の音が出ないようにする機能です。

### 設定方法

- ①MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、バイブ(VIBES)ボタンを押します。  
すると、バイブのランプが点滅を始めます。
- ②引き続きMIDI/トランスポーズボタンを押したまま、スプリットポイントにしたい鍵盤を押します。  
すると、バイブのランプが点灯に変わり、MIDIスプリット&ライトローカル・オフの状態になります。
- ③MIDI/トランスポーズボタンを離します。
- ④再びMIDI/トランスポーズボタンを押しながら、バイブボタンを押すと、通常の状態に戻ります。

- 🎵 **補足** ・MIDIスプリット&レフトローカル・オフ、ライトローカル・オフのいずれも、左側の鍵盤の演奏情報は、MIDIチャンネル2で送信されます。
- ・スプリットポイントの鍵盤は、常に左側に含まれます。
  - ・電源をオンにした時は、スプリットポイントはF#<sub>2</sub>に、MIDIスプリット&レフトローカル・オフおよびライトローカル・オフは通常の状態に戻っています。

## 7. パネルデータの送信



CLP-133のパネルデータ(選ばれている音色やリバーブの設定など)をMIDIアウト端子から送信します。この機能を利用すると、パネル上の設定状態を他のCLP-133に送ったり、ディスクレコーダー DRC-20やシーケンサー、MIDIデータファイラーMDF2などに保存したりできます。

### 送信方法

- ・MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、ストリングス (STRINGS)ボタンを押します。すると、パネルデータの送信を開始します。

- 🎵 **補足** ・パネルデータの送信では、パネル上の設定状態を一括して送信します。個々の設定を別々にすることはできません。
- ・送信されるパネルデータの詳細は、35ページをご覧ください。

# MIDIデータフォーマット

ここでは、CLP-133のMIDI仕様を解説しています。MIDIデータについて詳しく知りたい方は、お読みください。

## 1. ノートオン/オフ

データフォーマット：[9nH]→[kk]→[vv]

9nH=ノートオン/オフ情報(n=チャンネルNo.)

kk =ノートNo.(送信15~114=D#-1~F#7、

受信21~108=A-1~C7)

vv =ベロシティ(キー・オン=1~127、キー・オフ=0)

データフォーマット：[8nH]→[kk]→[vv]

8nH=ノートオフ情報(n=チャンネルNo.)

kk =ノートNo.(21~108=A-1~C7)

vv =ベロシティ(キー・オフ=0~127、ただしベロシティのコントロールは行いません。)

※受信のみします。

## 2. コントロールチェンジ

データフォーマット：[BnH]→[cc]→[vv]

BnH=コントロール情報(n=チャンネルNo.)

cc =コントロールNo.

vv =コントロール値

cc	コントロール	値(vv)
07H	ボリューム (受信のみ)	00000000 : -∞ 01101111 : -3dB 01111111 : ±0dB
0AH	パンポット (受信のみ)	00H~17H : 左6 18H~1FH : 左5 20H~27H : 左4 28H~2FH : 左3 30H~37H : 左2 38H~3FH : 左1 40H~47H : 中央 48H~4FH : スケリングパン 50H~57H : 右1 58H~5FH : 右2 60H~67H : 右3 68H~6FH : 右4 70H~77H : 右5 78H~7FH : 右6
0BH	エクスプレッション (受信のみ)	00000000 : -∞ 01101111 : -3dB 01111111 : ±0dB
40H	ダンパーペダル	00H~7FH : 8段階
42H	ソステヌートペダル	00H~3FH : オフ 40H~7FH : オン
43H	ソフトペダル	00H~3FH : オフ

5BH	リバーブテプス	40H~7FH : オン 00H~7FH
79H	リセットオールコントロール(受信のみ)	00H
7AH	ローカルコントロール(受信のみ)	00H : オフ 7FH : オン
7BH	オールノート・オフ(受信のみ)	00H
7CH	オムニ・オフ/オールノート・オフ(受信のみ)	00H
7DH	オムニ・オン/オールノート・オフ(受信のみ)	00H

## 3. プログラムチェンジ

データフォーマット：[CnH]→[pp]

CnH=プログラム情報(n=チャンネルNo.)

pp =プログラムNo.

pp	音色名
00	ピアノ1
01	ピアノ2
02	グラビノーバトーン
03	エレクトリックピアノ
04	ハーブシコード
05	パイプ
06	ストリングス
07	オルガン
08	ストリングススローアタック(受信のみ)

## 4. システムリアルタイムメッセージ

アクティブセンシングFEH

送信時は約200msecごとに1回。400msec以上受信しないと発音が停止します。

## 5. システムエクスクルーシブメッセージ

### ① ヤマハMIDIフォーマット

データフォーマット：[F0H]→[43H]→[Xn]→[ff]→  
[F7H]

43H : ヤマハID  
Xn : サブステータス+チャンネルNo.  
ff : フォーマットNo.

X ff 機能  
2 7CH パネルデータ・バルクダンプリクエスト  
2 7DH モデルIDコード・バルクダンプリクエスト

### ② クラビノーバMIDIフォーマット

データフォーマット：[F0H]→[43H]→[73H]→  
[32H]→[yy]→[F7H]

43H : ヤマハID  
73H : クラビノーバID  
32H : CLP-133 ID  
yy : サブステータス

yy 機能  
13H マルチティンバー・オフ  
15H マルチティンバー・オン  
7CH オールノート・オフ、受信チャンネル=c+1、オム  
ニ・オフ

### ③ 特殊コントロール

データフォーマット：[F0H]→[43H]→[73H]→  
[32H]→[11H]→[0nH]→  
[cc]→[vv]→[F7H]

43H : ヤマハID  
73H : クラビノーバID  
32H : CLP-133 ID  
11H : クラビノーバ特殊コントロール  
0nH : コントロールMIDIチェンジ+チャンネルNo.  
cc : コントロールNo.  
vv : 値

cc	コントロール	値(vv)
08H	デュアルバランス	00H : 左側音色最大 7FH : 右側音色最大
26H	タッチセンシティビティ	00H : ミディアム 01H : ソフト 02H : ハード
58H	プリリアンス	00H : ノーマル 01H : メロー 02H : ブライト
59H	リバーブ	00H : オフ 01H : ルーム 02H : ホール1 03H : ホール2 04H : コズミック

5AH デュアルオン/オフ

00H : デュアル・オフ  
01H : デュアル・オン(ノーマル)  
02H : デュアル・オン(左側音色1オ  
クタープ上)  
03H : デュアル・オン(右側音色1オ  
クタープ上)  
vv : デュアルボイス音色

5CH デュアルボイス

### パネルデータ送信フォーマット

F0H, 43H, 0nH, 7CH, 00H, 19H (n=チャンネルNo.)  
53H, 4BH, 20H, 20H (SK)  
43H, 4CH, 50H, 31H, 32H, 33H (CLP-133)  
3xH, 3yH (x,y=バージョンNo.)  
[パネルデータ]  
[チェックサム(1バイト)]=0-(5 3H+4 BH+2 0H+  
……+データエンド)  
F7H

### パネルデータ項目

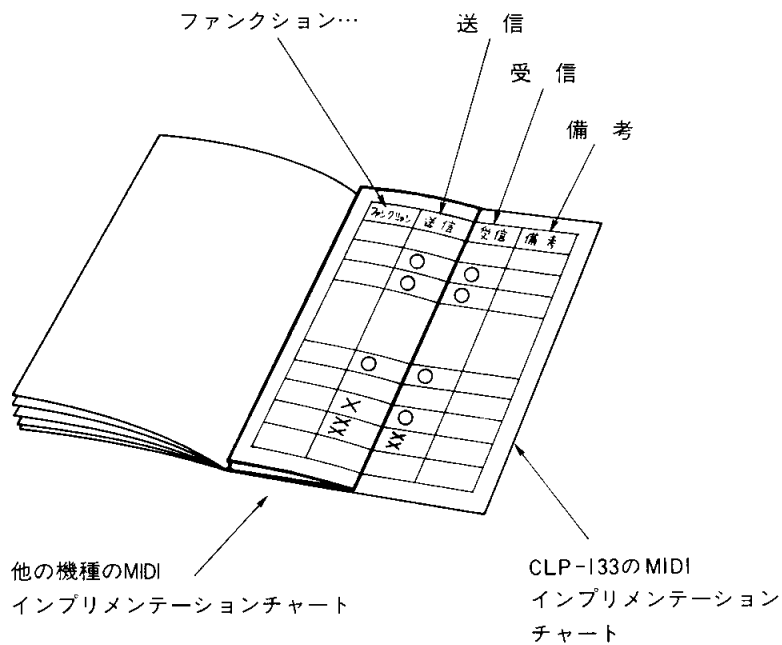
- ①ボイス
- ②デュアルボイス
- ③デュアルオン/オフ
- ④デュアルバランス
- ⑤プリリアンス
- ⑥⑦0
- ⑧リバーブ
- ⑨リバーブアプス
- ⑩タッチセンシティビティ
- ⑪0
- ⑫スプリットポイント
- ⑬0

### モデルIDコード送信フォーマット

F0H, 43H, 0nH, 7DH, 00H, 10H (n=チャンネルNo.)  
53H, 4BH, 20H, 20H (SK)  
43H, 4CH, 50H, 31H, 32H, 33H (CLP-133)  
3xH, 3yH, 20H, 20H, 20H (x,y=バージョンNo.)  
[チェックサム(1バイト)]=0-(5 3H+4 BH+2 0H+  
……+20H)  
F7H

# MIDIインプリメンテーションチャートとは

シンセサイザーや音源モジュールなどのMIDI機器には、必ずMIDIインプリメンテーションチャートと呼ばれる機能一覧表がついています。その機器がMIDIのどんな機能に対応しているかは外見からは判断できないため、このような表をつけることをMIDI規格で定めているのです。この表では左端の列にMIDIの各機能が並び、受信と送信でそれぞれの機能に対応しているかどうかを“O”と“X”で表わしています。2つの機器で互いにどんな機能が対応しているかを調べる時には、それぞれの機種種のチャートを縦に2つ折りにし、受信側と送信側をつなげてみます。(右図参照。“O”が2つ並べば、その機能が使えることになります。



## MIDIインプリメンテーションチャート

Date: 1992.4.29  
Version:1.0

ファンクション...	送信値	受信値	備考
ベーシック チャンネル 電源ON時 設定可能	1チャンネル 1~16チャンネル	1チャンネル 1~16チャンネル	
モード 電源ON時 メッセージ 代用	モード3 × *****	モード1 オムニ・オン、オムニ・オフ ×	
ノート ナンバー 音域	15~114 *****	0~127 21~108	
ベロシティ ノート・オン ノート・オフ	○9nH、v=1~127 ×9nH、v=0	○v=1~127 ×	
アフター タッチ キー別 チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチ・ベンダー	×	×	
コントロール チェンジ 07 10 11 64 66 67 91 121	× × × ○ ○ ○ ○ ○ ×	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	ボリューム パンポット エクスプレッション ダンパーペダル ソステヌートペダル ソフトペダル リバーブデプス  リセットオール コントローラー
プログラム チェンジ 設定可能範囲	○0~8 *****	○ 0~8 0~8	
エクスクルーシブ	○	○	
コモン ソング・ポジション ソング・セレクト チューン	× × ×	× × ×	
リアル タイム クロック コマンド	× ×	× ×	
その他 ローカルON/OFF オール・ノート・オフ アクティブ・センシング リセット	× × ○ ×	○ ○(123~125) ○ ×	*1
備考	*1 123はオムニ・オフ時またはマルチ・ティンバーモード・オン時		

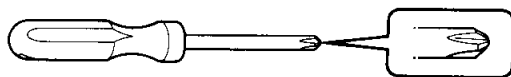
活用編

モード1: オムニ・オン、ポリ      モード2: オムニ・オン、モノ      ○: あり  
 モード3: オムニ・オフ、ポリ      モード4: オムニ・オフ、モノ      ×: なし

## クラビノーバの組み立てかた

- ・部品をまちがえたり、向きをまちがえないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
- ・組み立ては、必ず2人以上で行ってください。
- ・解体する時は、組み立てと逆の手順で行ってください。

1. +(プラス)のドライバーを用意します。



2. 箱を開けて部品を取り出します。そして部品がすべてそろっているか確かめてください。

ネジセット VR12060

長いネジ(金色)×6 ①



短いネジ(頭大)×4 ③



細いネジ(頭小)×4 ④



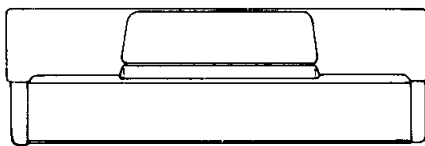
短いネジ(頭小)×6 ②



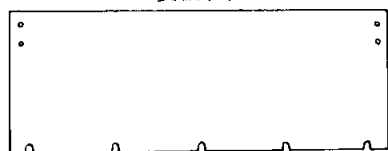
コードクランプ×2 ⑤



本体(A)



裏板(B)



左板(C)



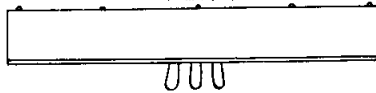
右板(D)



左足(F)



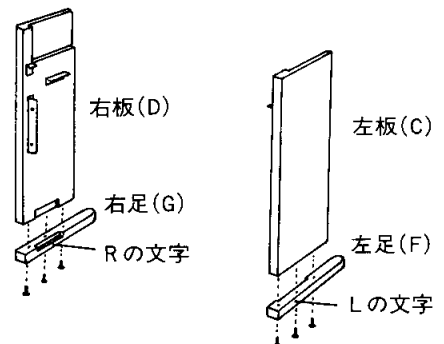
下板(E)



右足(G)

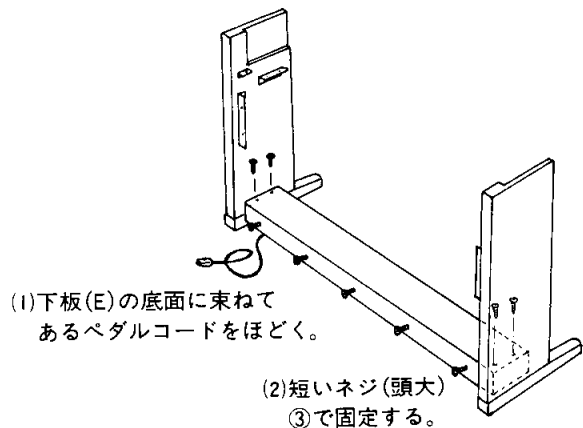


3. 右板(D)と右足(G)、左板(C)と左足(F)を固定します。

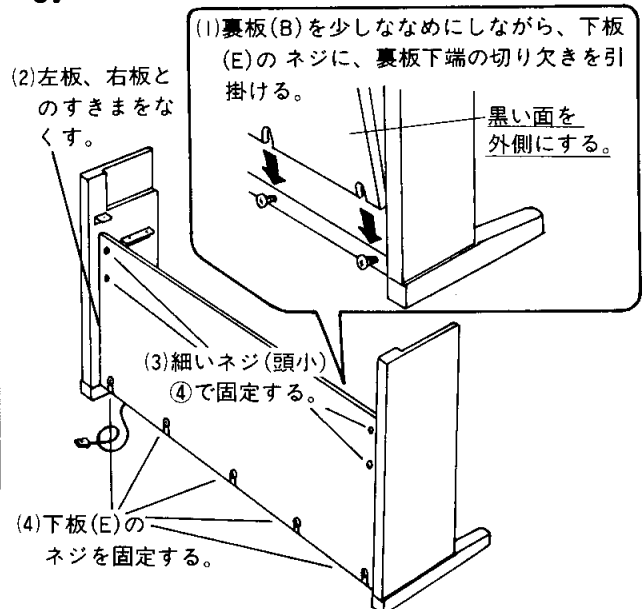


長いネジ(金色)①で固定する。

4. 下板(E)を固定します。



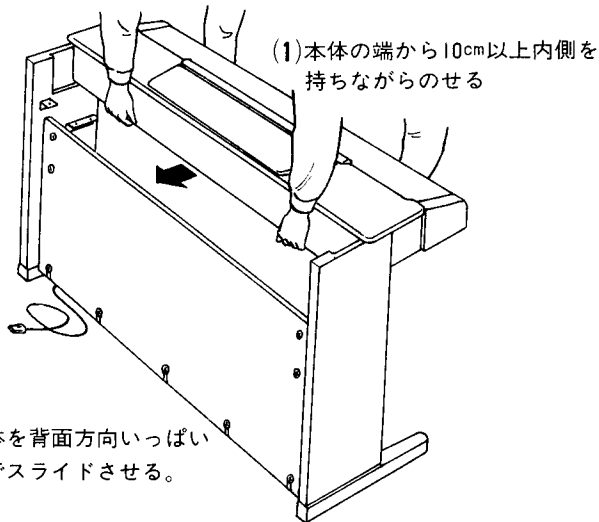
5. 裏板(B)を固定します。





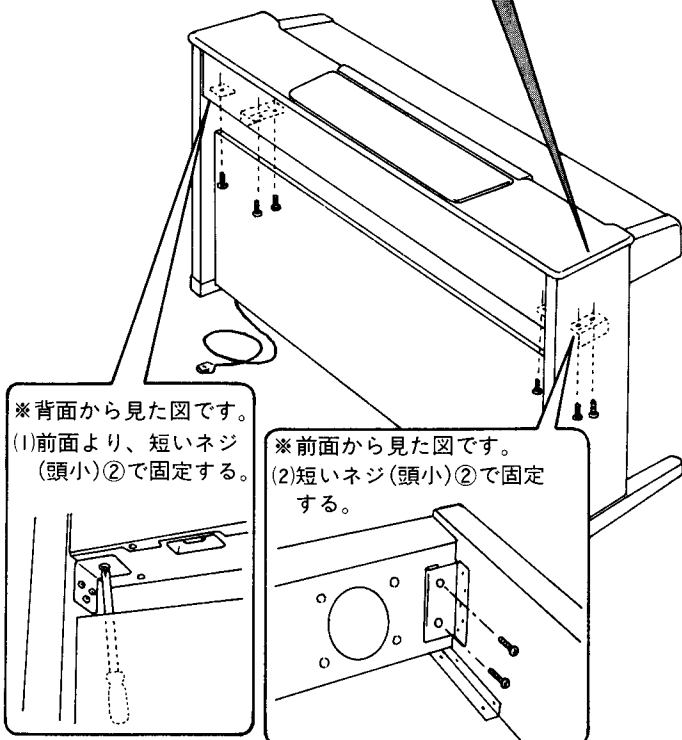
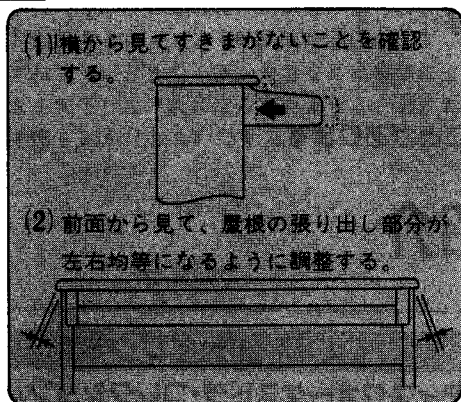
## 6. 本体(A)をのせます。

※指をはさまないように充分注意してください。

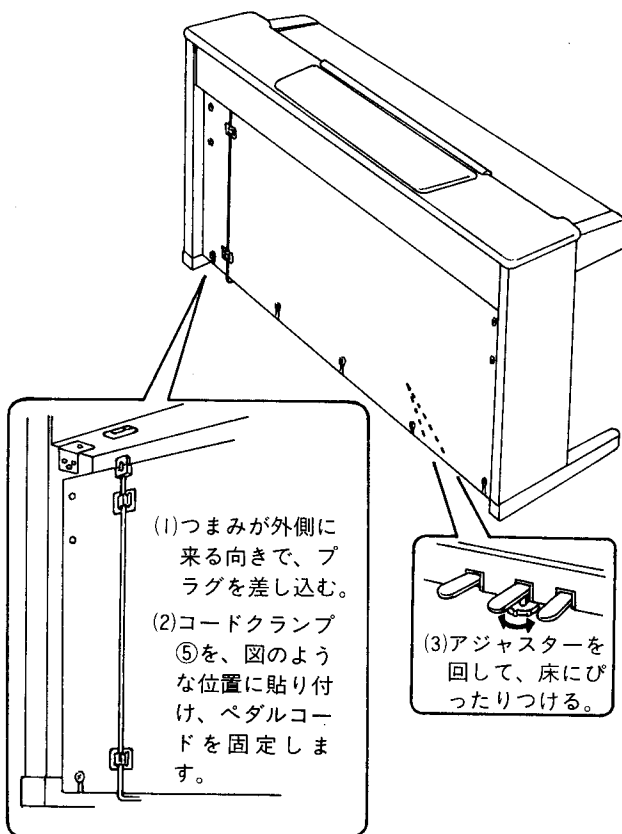


## 7. 本体(A)を固定します。

**注意**



## 8. ペダルコードを接続し、アジャスターを回します。



🎵 組み立て後、必ず以下のチェックをしてください。

- 【部品が余っていませんか?】  
→ 組み立て手順を再確認してください。
- 【部屋のドア等が、クラビノーバにあたりませんか?】  
→ クラビノーバを移動してください。
- 【クラビノーバをゆすると、ガタガタしませんか?】  
→ ネジを確実に締めてください。
- 【ペダルを踏むと、下板がガタガタしませんか?】  
→ アジャスターを回して床にぴったりつけてください。
- 【ペダルコードのプラグが、確実に本体に差し込まれていますか?】  
→ 確認してください。

・引越しなどでクラビノーバを移動した場合は、各ネジを締め直してください。

# 仕様

- 鍵盤……………88鍵(A-1~C7)、イニシャルタッチ付き
- 音色……………ピアノ1、ピアノ2、クラビノーバトーン、エレクトリックピアノ、ハーブシコード、パイプ、ストリングス、オルガン
- 効果・機能 ……プリリアンス、リバープ、タッチセンシティビティ、トランスポーズ、ピッチコントロール、デュアル
- コントロール…電源スイッチ、マスターボリューム、ダンパーペダル、ソステヌートペダル、ソフトペダル
- 付属端子……………ヘッドフォン端子(×2)、AUX出力端子(L/L+R, R)、オプション入力端子(L, R)、MIDI端子(IN, OUT, THRU)
- メインアンプ…30W×2
- スピーカー……13cm×2、5cm×2
- 定格電源……………AC100V、50/60Hz
- 消費電力……………50W
- 外装……………仕上げ…ダークローズウッド調仕上げ  
間口…144.0cm 奥行き…48.6cm 高さ…83.9cm 重量…64.0kg
- 装備……………スライド式キーカバー(木製)、椅子・BC-8  
折りたたみ式譜面立て(木製)

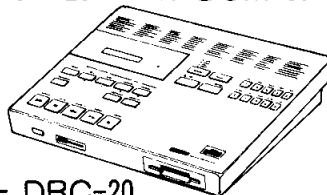
※仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

## オプション (別売品) のご紹介

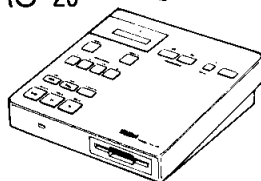
ヘッドフォン・HPE-160  
¥5,500



ディスクオーケストラ・モジュール DOM-30  
¥110,000



ディスクレコーダー DRC-20  
¥50,000



### DOM-30対応ソフト

#### 「ディスクオーケストラ・コレクション」

オーケストラ音源をバックにピアノプレイが楽しめます。

下記7シリーズが発売されています。

- ・クラシック
- ・ジャズ
- ・ポピュラー
- ・スクリーン
- ・ファミリー
- ・メソッド
- ・弾き語り

### DOM-30/DRC-20対応ソフト

#### 「ピアノプレーヤソフト」

ピアノソロ鑑賞用ソフトとしてお楽しみいただけます。

※表示の価格には、消費税は含まれていません。

# サービスと保証

サービスのご依頼は、お買い上げ店へお申し付けください。

- 本機の保証は、保証書によりご購入から満1ヵ年です。  
(日本国内のみ有効)
- 保証期間の1ヵ年を過ぎましても有償にて責任をもってサービスを実施いたします。尚、補修用性能部品の保有期間は製造打切り後最低8年となっております。また、保証期間中の修理などサービスについてご不明の場合は、お買い上げ店か右記、お近くのサービス網宛お問い合わせください。

## ■お買い上げ店による修理調整

故障の場合は、お買い上げ店にご連絡ください。責任を持って修理調整をいたします。

## ■サービスのご依頼

サービスをご依頼なさるときは、お名前、ご住所、電話番号などをハッキリお知らせください。またお勤めで昼間ご不在の方は、お勤め先の電話番号、もしくは連絡方法をお知らせください。(楽器の具合をもう少し詳しくおたずねしたいときや、万一やむをえぬ事情によって、お約束を変更しなければならないようなときにお客さまにご迷惑をおかけしないですみます。)

## ヤマハ電気音響製品サービス拠点

[修理受付および修理品お持込み窓口]

北海道サービスセンター	〒064 札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内 TEL. 011(513)5036
仙台サービスセンター	〒983 仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F TEL. 022(236)0249
首都圏サービスセンター	〒211 川崎市中原区木月1184 TEL. 044(434)3100
東京サービスステーション*	〒108 東京都港区高輪2-17-11 (*修理品お持込み窓口) TEL. 03(5488)6625
浜松サービスセンター	〒435 浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内 TEL. 053(465)6711
名古屋サービスセンター	〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ(株)名古屋流通センター3F TEL. 052(652)2230
大阪サービスセンター	〒565 吹田市新芦屋下1-16 ヤマハ(株)千里丘センター内 TEL. 06(877)5262
四国サービスセンター	〒760 高松市丸亀町8-7 ヤマハ(株)高松店内 TEL. 0878(22)3045
広島サービスセンター	〒731-01 広島市安佐南区西原6-14-14 TEL. 082(874)3787
九州サービスセンター	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL. 092(472)2134
(本 社)	
カスタマーサービス部	〒435 浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内 TEL. 053(465)1158

北海道支店	〒064 札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内
営業課	TEL. 011(512)1550
仙台支店	〒980 仙台市青葉区大町2-2-10 住友生命青葉通りビル
営業課	TEL. 022(222)6149
東京支店	〒108 東京都港区高輪2丁目17-11
楽器推進課	TEL. 03(5488)5442
関東支店	〒108 東京都港区高輪2丁目17-11
営業推進課	TEL. 03(5488)1680
名古屋支店	〒460 名古屋市中区錦1-18-28
楽器推進課	TEL. 052(201)5140
大阪支店	〒542 大阪市中央区南船場3-12-9 心斎橋プラザビル東館
楽器推進課	TEL. 06(252)7541
広島支店	〒730 広島市中区紙屋町1-1-18
営業課	TEL. 082(244)3748
九州支店	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
営業課	TEL. 092(472)2152
電子楽器営業部	
クラブノーバ営業課	〒430 浜松市中沢町10-1 TEL. 053(460)3275

※住所および電話番号は変更になる場合があります。

**ヤマハ株式会社**